

共立女子大学・共立女子短期大学

独自の取り組み 2019



共立女子大学・共立女子短期大学

はじめに

共立女子大学・共立女子短期大学

学長 川久保 清

このガイドブックは、共立女子大学・短期大学での学びの特徴的なところや学生生活をはじめ地域との連携、国際交流などさまざま正課外活動の様子を、学部・学科毎に取り上げたものです。学部・学科の広報係の先生方や事務局の職員が、部署毎に特徴的なところ、独自なところを取りあげ、写真をそえて説明しています。本学の広報誌である『オフィシャル・ガイド』や各学部・学科で発行している広報誌には学部・学科の正課のことが記載されていますが、本ガイドブックは、様々なトピックスを読み物としてまとめたものとなっています。

この「本学独自の取り組み」は、前学長である入江先生の発案で最初に作成されました。毎年、項目数もページ数も増え、入学から卒業後までの学生生活を網羅したものになっています。

なお、大学運営や入学試験に関わる事項についてはここでは取り上げていません。

本学の教育活動、学生生活の様子を知っていただくためにお目通しいただければ幸いです。

目次

家政学部

1

I 被服学科	1
1 和の文化を体験・継承する教育・研究	1
2 個性的・創造的な表現を追求する「卒業制作発表会」	1
3 将来の被服につながる研究成果を発表する「卒業論文・制作・演習発表会」	1
4 化粧を含む包括的なファッション教育	2
5 綿の栽培と手紡ぎによるサステナブルファッション教育	2
6 デジタルファッションに関する海外の大学との交流	2
II 食物栄養学科	2
1 フレッシュマンキャンプ	2
2 日本料理・西洋料理学外研修	3
3 食物学特別講演会	3
4 卒業論文・卒業演習発表会	3
III 建築・デザイン学科	3
1 設計演習合同講評会	3
2 子どものまち・いえワークショップ提案コンペ	3
3 建築とインテリアの融合	3
4 越後妻有アートトリエンナーレ	3
5 雪旅籠の灯り（ゆきはたごのあかり）	4
6 デザインコース プロダクトデザイン展	4
7 毎日広告デザイン賞の応募・学内展示	4
8 MSC（海洋管理協議会）とのデザイン・コラボレーション	4
9 デザインコース 神保町グルメかるた	4
10 デザインコース 共立祭展示	5
11 建築・デザイン学科卒業制作学内展	5
12 卒業制作有志学外展	5
13 中高大対象のデザインコンペ「わたしtoデザイン」	5
14 建築とデザインの融合（建築&デザイン総合演習）	5
IV 児童学科	6
1 発達相談・支援センター	6
2 共立大日坂幼稚園との連携	6
3 児童学科海外研究旅行	6
4 就職・進路ガイダンス	6
5 卒論発表会	6

文芸学部

7

I 学ぶ	7
1 講座	7
2 動画を活用した授業	7
3 十二単着装の見学	7
4 ゼミ展	7

Ⅱ	読む	8
1	ブックマラソン	8
2	リーディング・マラソン (Reading Marathon)	8
3	プレジール・ドゥ・リール (Plaisir de lire)	8
Ⅲ	究める	8
1	日本文学研究旅行	8
2	造形芸術研究旅行	8
3	フランス語フランス文学コース研究旅行	9
4	源氏物語研究会	9
5	文芸メディア研究集会	9
6	「私が読んだ一冊」ポスター発表	9
Ⅳ	楽しむ	10
1	フランス語劇上演	10
2	合同観劇会	10
Ⅴ	称える	10
1	さくら賞	10
2	マリアヌヌ賞	10
3	文教賞	10
4	すみれ賞	11
5	プリマヴェーラ賞	11
6	英語英米文学コース卒業論文報告会	11
7	絵画卒業制作・学外展	11
Ⅵ	伝える	11
1	『文藝学部報』	11
2	『K-RITs』	11
3	『櫻雲』	12
4	『卒業論文・卒業制作概要集』	12
5	『文芸FD報告』	12
6	『文学藝術』	12
7	『タ・ケパライア』	12
Ⅶ	出会う	12
1	「OGネットワーク」によるキャリア支援	12
2	校会展	12

国際学部

13

Ⅰ	新しいカリキュラムーGSEプログラム	13
1	GSEの取り組み	13
Ⅱ	長期留学および語学研修	13
1	国際学部学生の海外留学	13
2	留学で取得した単位の認定	13
Ⅲ	国際学部短期語学研修プログラム	13
1	州立ワシントン大学	13
2	ダブリン・シティ大学	13

Ⅳ 国際交流	14
1 フルブライト招聘講師	14
2 海外研究旅行	14
3 学生の国際交流	14
4 教員による研究交流	14
Ⅴ 教育プラスアルファ	15
1 さまざまな授業形態	15
2 活発なゼミ活動	15
3 卒業研究の成果発表と優秀論文の表彰	16
4 学部講演会	16
Ⅵ 広報活動の展開	16
1 教員リレー・エッセイの実施	16
2 学生広報委員の活動	16
3 国際学部特製オリジナルグッズの作製	17
Ⅶ 就職活動支援	17
1 マナー講習会	17
2 JICAボランティア・セミナー～いつか世界を変える力になる	17
Ⅷ 刊行物	17
1 『国際学部リブレット』	17
2 『プロスペクタス』	17

看護学部

18

Ⅰ 看護実践能力向上への取り組み	18
1 OSCE	18
Ⅱ 看護学部7領域の取り組み	18
Ⅱ-1 基礎看護学	18
1 デモンストレーション動画を活用した「基礎看護技術論」	18
2 基本の看護技術を学ぶ「日常生活援助技術論」	19
3 最新の診療機材を用いて学ぶ「医療支援技術論」	19
4 シミュレーターを多用した「ヘルスアセスメント論」	19
5 問題解決思考に支えられた「看護過程展開論」	19
6 ワールドカフェとプレゼンテーションで学びをシェアする実習	19
Ⅱ-2 小児看護学	20
1 アクティブラーニングを取り入れた小児看護学援助演習	20
Ⅱ-3 母性看護学	20
1 千代田区における母子保健向上のための「妊婦サロン」の運営	20
2 4年生が3年生へ母性看護技術提供を指導する「ピアエデュケーション」	20
Ⅱ-4 成人看護学	20
1 成人看護学の概要	20
2 シミュレーション演習で学ぶ周術期看護	20
3 腎臓病食の試食や患者・家族の役を演じて学ぶ授業	21
Ⅱ-5 高齢者看護学	21
1 高齢者看護学実習Ⅰでの巣鴨地藏通り商店街探索	21
2 認知症サポーター養成講座の体験受講	21
Ⅱ-6 精神看護学	21
1 精神障がい者の当事者による「病気の体験」の語りから学ぶ特別講義	21

II-7 地域・在宅看護学	22
1 時代のニーズに応える地域・在宅看護学教育	22
2 豊富なアクティブラーニングと実践家による講義	22
3 最先端の在宅医療機器を用いた医療機器管理演習	22
4 地域連携を基盤とする地域看護診断演習	22
5 学校・産業保健活動の実践現場体験	23
III 学生生活・キャリア支援・国家試験対策	23
1 新入生歓迎交流会	23
2 3年生対象キャリア支援（前期）	23
3 総合技術演習（OSCE）Ⅰ修了式の開催	23
4 3年生対象キャリア支援（後期）	23
5 さくら通信（「とびだせ！Kyoritsuナースー学生委員会さくら通信ー」）の発行	24
6 ポスター掲示による看護研究発表会	24
7 国家試験対策	24
8 すずらん祭りへの参加	24
IV 教育推進のための取り組み	24
1 実習運営合同会議の開催	24
2 共立看護学雑誌の発行と看護学研究会の開催	24

生活科学科

25

I 正課の教育	25
1 卒業研究・卒業制作発表会	25
2 実践教育	25
3 学外学習	25
4 リテラシー教育	25
5 短期大学共通講座	25
II 正課のキャリア支援	26
1 チャレンジ・ゼミナール	26
2 キャリアを考える	26
3 キャリアアクティブワーク	26
4 編入体験報告会	26
5 外部講師による授業の充実	26
III 正課外のキャリア支援	27
1 社会人としてのマナー講座	27
2 自分育能力講座	27
3 インターンシップ研修	27
4 就活トークイベント 在学生編	27
5 就活トークイベント OG編	27
6 OGトークイベント 女性の働き方を考える	28
IV 優秀学生の表彰	28
1 卒研要旨集表紙・ポスターの原画デザイン	28
2 学科紹介ブックレット表紙デザイン	28
V 高大の繋がりを意識した教育	28
1 入学前教育：マンスリーレポート	28
2 入学前教育：コース別の課題学習	28

I	正課でのキャリア支援	29
1	キャリアデザイン演習・キャリアアクティブワーク	29
2	就職活動への積極的指導	29
3	秘書実務を学ぶ	29
4	観光英語を学ぶ	29
5	大学編入への積極的指導	29
II	正課外でのキャリア支援	29
1	キャリサポ	29
2	内定者トークイベント	30
3	編入トークイベント	30
4	OGネットワークを用いてのキャリア支援	30
III	リテラシー教育	30
1	リテラシーポイント	30
2	千字エッセイコンテスト	30
3	英語スピーチコンテスト	31
4	読書レポート	31
IV	特徴的な施設と活動	31
1	文科読書室	31
3	読書室活動	31
2	読書室委員	31
4	ブックパーティ	31
5	自習室	31
V	学生支援	32
1	学習カルテ	32
2	助手による面談	32
3	『文科GUIDANCE』	32
VI	学生と教員の交流	32
1	新入生歓迎タイム	32
2	クリスマス会・新年会	32

I	教育システム	33
1	小さな総合大学	33
2	全学共通教育科目	33
3	教養講座・総合表現ワークショップ	33
4	基礎ゼミ	33
5	ネイティブ教員による英語科目	33
6	プレイスメントテスト	33
7	FD研修会	34
8	臨時講師	34
9	助手制度	34
10	ゼミナール研究旅行	34
11	総合文化研究所	34
12	女性学	34

13	履修中止制度	34
14	教育充実特別予算（大短GP）	34
Ⅱ	ITによる教育支援	35
1	kyonet	35
2	グーグル・アップス	35
3	共立シラバス	35
4	出席管理システム	35
5	クリッカー	35
6	学内限定 Google+（グーグル・プラス）.....	35
7	インフォメーションPC	35
8	共立Web英語塾	36
9	情報センター	36
Ⅲ	正課外教育	36
1	正課外活動評価制度	36
2	自己開発単位認定	36
3	英会話ルーム	36
4	共立祭運営委員会研修	36
5	共立アカデミー	36
6	入学前教育	36
7	リーダーシップ研修	36
8	チームワーク研修	37
9	講演会	37
Ⅳ	学生生活支援	37
1	奨学金	37
2	実務体験奨学金	37
3	学内アルバイト	37
4	学生相談室	37
5	キャンパスハラスメントへの対応	37
6	デジタルサイネージによる情報発信	37
7	学生生活実態調査	37
8	Kyoritsu Water	38
9	キャンパスガイド	38
Ⅴ	学生関連施設	38
1	学生寮	38
2	研修センター	38
3	八王子キャンパス	38
4	戸田艇庫	38
5	トレーニングルーム	38
Ⅵ	障がいのある学生への支援	38
1	ノートテイク講習会	38
2	点字サービス	38
3	バリアフリー	39
4	支援チーム	39
Ⅶ	学生の活動	39
1	共立祭	39
2	共立祭表彰制度	39
3	新入生歓迎会	39
4	学内レガッタ	39

5	共立音楽祭	39
6	ロビーでの単発的音楽演奏	40
7	伝統文化企画	40
8	浴衣DAY	40
9	「本の街・神田すずらんまつり」への参加・協力	40
10	美術館・博物館キャンパスメンバーズ	40
11	共立カレー	40
VIII 保護者との連携		41
1	新入生保護者説明会	41
2	在学生家族懇談会	41
3	授業見学会	41
4	kyonet保護者アカウント	41
5	後援会	41
IX 図書館・博物館		41
1	KWU分類による配架	41
2	スマホアプリ「リブコモ！」	41
3	ラーニング・コモンズ	41
4	学修支援	42
5	共立Stand Up！プロジェクト	42
6	学生図書委員会	42
7	共立女子大学博物館	42
X 就職支援		42
1	面談記録（スチューデントプロフィール）	42
2	進路ガイダンス・プログラム	42
3	個別相談	42
4	卒業生との懇談会	43
XI 環境問題		43
1	環境学習	43
2	エコ照明	43
3	屋上庭園	43
4	雨水利用	43
5	省エネルギー	43
XII 防災		43
1	防災訓練	43
2	緊急避難訓練	43
3	防災設備	44
4	災害用備蓄品	44
5	千代田区との防災協定締結	44
6	安否確認テスト	44
7	災害時対応マニュアル	44
XIII 国際交流		44
1	国際交流委員会	44
2	国際交流室	44
3	留学制度	44
4	交換留学	44
5	イナルコ大学（交換留学・フランス）	45
6	ジュネーブ大学（交換留学・スイス）	45
7	中国人民大学（交換留学・中国）	45

8	派遣留学（全学対象）	45
9	アメリカ・セントラルワシントン大学（派遣留学・アメリカ）	45
10	ウィニペグ大学（派遣留学・カナダ）	45
11	リーズ大学（派遣留学・イギリス）	45
12	オックスフォード・ブルックス大学（派遣留学・イギリス）	45
13	バーミンガムCIC（派遣留学・イギリス）	46
14	私費外国人留学生授業料減免制度	46
15	国際交流奨学金	46
16	夏季海外研修（全学対象）	46
17	ハワイ大学カピオラニカレッジ（夏季海外研修・アメリカ）	46
18	アンジェ西部カトリック大学（夏季海外研修・フランス）	46
19	春季海外研修（全学対象）	46
20	広東外語外資大学（春季海外研修・中国）	46
21	クイーンズランド大学（春季海外研修・オーストラリア）	46
22	ポーランド ヤギェウォ大学との交流	46
23	海外インターンシッププログラム（上級者用プログラム）	47
24	ペンシルベニア大学協定校派遣留学（上級者用プログラム）	47
25	ブリティッシュヒルズプログラム【宿泊型】（国内留学プログラム）	47
26	国内英国留学@Kyoritsu【通学型】（国内留学プログラム）	47
27	日本語教育プログラム	47
28	国際交流チューター制度	47
29	留学生懇談会	47
30	外国人科目等履修生	47
31	『共立インターコム』	48
32	中国	48
33	ベナン共和国	48
34	インドネシア	48
35	グローバルコモンズ	48
36	フランス語 中国語 トークルーム	48
37	カナダ留学フェア@Kyoritsu	48
XV 社会との連携		49
1	共立講堂	49
2	公開講座	49
3	神保町ブックフェスティバルへの参画	49
4	ボランティア情報コーナー	49
5	撮影協力	49
6	立地との関わり	49
7	千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム	49
8	千代田学	50
9	東京オリンピック・パラリンピックへ向けて	50
10	共立オリンピック・パラリンピックボランティア育成プログラム	50
11	共立女子学園内託児所	50
XV 卒業生との連携		50
1	『共立女子学園報』	50
2	共立生涯メール	50
3	櫻友会	50
4	教員免許状更新講習	51
5	ホームカミングデイ	51

I 被服学科

1 和の文化を体験・継承する教育・研究

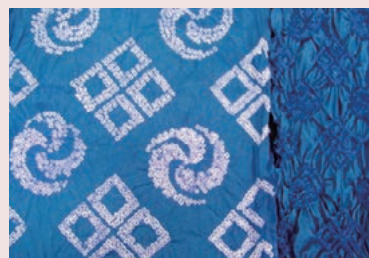
(1) 伝統をつなぐ

130年を超える歴史を誇る被服学科では、染織文化財の保存・修復の伝統的技術や知識を継承する教育・研究に取り組んでいます。2016年度から五島美術館（東京都世田谷区）と授業協定を結び、これまでに同美術館所蔵「金屏風を収める収納袋」を制作し、2017年度は、根津美術館（東京都港区）所蔵の桃山時代の能装束「茶地立涌雪持松文様縫箔」を修復しました。2018年度は受託研究として福井市郷土歴史博物館越葵文庫に寄託の「大礼服一式」（写真：大桐花文上着）の修復を進めています。このように美術館・博物館と連携し、実践的な教育・研究を通して和の文化を次世代に継承しています。



(2) 浴衣スタイリングショー

2016年度から浴衣スタイリングショーを開催しており、2018年度は地域連携・産学連携事業として、神田明神の特別協力、千代田区・中央区の後援により、東京織物卸商業組合との共催で「2018浴衣スタイリングショー」を開催しました。反物の絞り染めや浴衣の制作では企業の協力もあり、神田明神をテーマにデザインした、伝統的な絞り染めの浴衣、プリント柄の浴衣、さらに、親子でコーディネートした浴衣などを発表しました。



2 個性的・創造的な表現を追求する「卒業制作発表会」

修得した被服造形の知識と技術を活用して、4年次では1年間をかけて卒業制作に取り組み、その成果を卒業制作発表会（ファッションショー）で発表します。ウェディングドレス、オリジナルデザインの衣装や服飾雑貨、和服そしてウェアラブルコンピュータを活用した衣装など個性的・創造的なテーマの作品が制作されています。ファッションショーの演出や運営もすべて学生が担当し、共同作業を通して主体的に課題を発見して解を見出すアクティブ・ラーニングとしても重要な役割を果たしています。



3 将来の被服につながる研究成果を発表する「卒業論文・制作・演習発表会」

卒業論文・制作・演習発表会では、被服学に関する様々な専門分野に関して1年を通して携わった研究成果を口頭でのプレゼンテーションやパネルを用いたポスターセッションで発表しています。学術的また実務的な視点から様々な研究に取り組み、斬新なビジネスプランや新素材研究など、将来の被服につながる研究を進めています。



4 化粧を含む包括的なファッション教育

ファッションにおける衣服と化粧の関係は重要で、被服学科では2016年度から化粧分野に関する科目を開講しています。単なる興味に終わらず化粧に関する正しい知識を身につけ、自分自身の生活や将来の仕事に活かすことを目的としています。「化粧品科学概論」では、皮膚の構造や、化粧品の成分と効果効能といった科学的知識を、「コスメティック・マーケティング論」では、化粧品市場の概況からブランド戦略、消費者の行動・心理といったマーケティングに関する幅広い知識を学びます。

4



5 綿の栽培と手紡ぎによるサステナブルファッション教育

Tシャツやデニム製品などの素材として私たちの身の回りに多用されている綿（めん）ですが、それが植物（ワタ）の種子に生えている繊維であることはご存知でしょうか？実物を見たことがない学生が多いことから、実際にワタを育てて教育・研究に活用することを試んでいます。学生たちが、自らワタを育て、紡錘（写真左）や糸車を使って自分で糸を手紡ぎし、布に織りあげました。写真右は織った布を様々な色に染めたものです。ワタの種から育てて布になるまでの大変な作業を実習すると、衣服を大切にすることが自然に育まれます。また、衣服の生産技術を構築した先人の努力への気づきや、安価な衣服の価格に関する疑問を考えるきっかけを与えてくれます。これからも体験し、実感する教育を追求します。

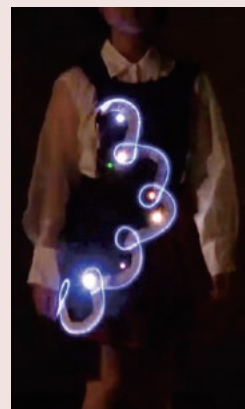
5



6 デジタルファッションに関する海外の大学との交流

ウェアラブルコンピューティングやコンピュータアニメーションなどのデジタルファッションについて、2016年度から韓国の世宗大学 (Sejong University) とワークショップを開催するなどの教育・研究の交流を行っています。2018年度は、中国の浙江大学 (Zhejiang University)、蘇州大学 (Soochow University) を訪問して教育・研究の交流を進めています。グローバル人材の育成を念頭に、被服学科では海外の大学との交流も積極的に進めています。

6



II 食物栄養学科

1 フレッシュマンキャンプ

毎年、新入生を対象にオリエンテーションを兼ねたフレッシュマンキャンプ（1泊2日）を本学の研修センター河口湖寮で行っています。新入生に対し学科の全教員と助手4名、4年次学生のオリター4名が、共立での大学生活について細部にわたり説明し、フレッシュマンの不安を取り除くとともに、親睦を深めることを目的としています。新入生同士や教員・助手と知りあえる貴重な機会となっています。（2018年度は諸事情により学内でオリエンテーションを行いました。）

7



2 日本料理・西洋料理学外研修

日本料理、西洋料理の作法を学ぶために学外研修を行っています。日本料理学外研修会は「つきち田村」で、西洋料理研修会は「帝国ホテル」で行っています。日本料理研修会では、料理の基本をプロの料理人から講義していただき、和食の伝統を学んでいます。西洋料理研修会では、マナーを中心とした講義をしていただいています。毎年、多くの学生が参加し、美味しい料理を堪能しています。



3 食物学特別講演会

学外から講師をお招きして、特別講演会を毎年開催しています。食物の話題に限らず、その道の専門家の方をお呼びしています。この講演会は、正課外活動の一環として位置づけています。学生だけでなく、教員にとっても有意義な講演会となっています。



4 卒業論文・卒業演習発表会

4年間の集大成として、毎年1月末に、卒業論文・卒業演習発表会を行っています。学生が主体的に企画・運営することが特徴です。1年間、それぞれのテーマについて研究、調査を重ね、学会発表としても十分に通用する発表が多く見受けられます。卒業論文・卒業演習は、食物学専攻では必修科目です。管理栄養士専攻では選択科目ですが、毎年9割を超える学生が選択しています。



III 建築・デザイン学科

1 設計演習合同講評会

建築コースでは、通常の授業とは別に、2月に各学年の優秀作品を集め、現役建築家をゲストクリティークに迎え合同講評会を行っています。設計演習は基礎から始まって住宅、公共的な施設と順を追って規模も大きく、内容も複雑になるように設定されています。建築・インテリアの設計は経験がない空間をつくることが多く、また解答がない作業です。そのため他学年の作品を見ることはこれからの心構えにもなりとても有効です。



2 子どものまち・いえワークショップ提案コンペ

建築コースでは日本建築学会主催「子どものまち・いえワークショップ提案コンペ」に毎年参加しております。このコンペは子どもや親子向けの住環境・都市環境教育の企画を学生が提案し、最優秀賞の企画を日本建築学会の支援のもとで実施する取組です。2018年度は最優秀賞こそ逃したものの、最優秀を含めた入賞5作品のうち3作品が共立チームという快挙を成し遂げました。



3 建築とインテリアの融合

建築コースは、「建築分野」と「インテリア分野」の2つの分野で構成されているのが特徴のひとつです。しかし、建築とインテリアは切っても切れないものです。そのため、1年の基礎と2年の前期は建築からインテリアまでトータルに設計出来るように各分野同一の課題とし、2年の後期から各分野にわかれ専門性に特化したものとしています。特に1年と2年の前期は建築を学ぶ上での基礎でとても重要なフェーズのため、他の課題より多くの教員を集中して配置して指導を行っています。



4 越後妻有アートトリエンナーレ

新潟県越後妻有（えちごつまり）で3年毎に行われるアートトリエンナーレに建築コースの教員・学生が参加しています。

2009年には、小出にある廃屋の民家を「うつすいえ」として再生しました。この家を過疎化の進む小出の集落の活動の場とし、村の人々との交流を図るとともに地域の活力を作り出すことを目的に、継続してワークショップを行っています。



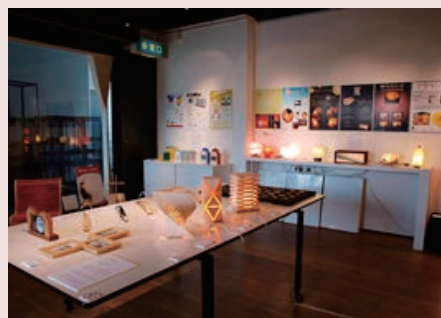
5 雪旅籠の灯り（ゆきはたごのあかり）

建築コースでは、山形県西川町 月山・志津温泉でまちおこしの一環として開催している行事に学生と教員が参加しています。雪で旅籠を作り、昔の志津温泉の街並みを再現するこのイベントは、毎年県内外からたくさんの来場者が訪れます。学生は地元の方々との交流を深めながら、建築の構造や光環境について体験しながら学んでいます。



6 デザインコース プロダクトデザイン展

デザインコースでは、毎年JIDA（公益社団法人日本インダストリアルデザイナー協会）のギャラリー（六本木アクシスビル）を借りて、建築・デザイン学科におけるプロダクトデザイン作品の展示を実施しています。2年生から4年生までの演習課題で優秀作品となったものが中心になります。プロダクト演習の基礎、演習I. II. III.のほか、青木/福田ゼミナール、木工演習、金工演習の作品も含みます。学外展示の利点として、他のデザイン関係者の目に触れる機会があるほか、作品に対し多くのご意見を得られるため、意義ある活動となることを期待しています。



7 毎日広告デザイン賞の応募・学内展示

デザインコースでは、第79回～84回とグラフィック分野の学生が全員参加しています。応募した作品の学内展示も行っています。毎日広告デザイン賞は長い歴史のあるデザイン賞で、若いデザイナーの登竜門ともなっています。



8 MSC（海洋管理協議会）とのデザイン・コラボレーション

デザインコース林田ゼミとMSC、そして流通のイオンとのコラボレーションで、学生はポスターやPOPの制作をして、展示会やイオンの店舗で毎年発表を行っています。MSCは減少傾向にある世界の水産資源の回復を目指し、1997年にイギリスで設立された国際NPOです。



9 デザインコース 神保町グルメかるた

デザインコースでは学生の神保町理解と地域貢献を目的にした演習授業があり、その中で「神保町グルメかるた」というデザイン企画が生まれました。この度、その企画が「共立女子大生が作った神保町グルメかるた」として1,500部制作し、一般の皆様へ配布を開始いたしました。特別協賛の興産信用金庫様を始めとして千代田区／千代田区観光協会様に後援していただいております。神保町の活性化の為に「神保町グルメかるた」が広く行き渡るよういくつかのイベントを企画しています。企画・運営：共立女子大学（家政学部 建築・デザイン学科 デザインコース）

後援：千代田区／千代田区観光協会

協力：共立女子大生が選んだ「神保町グルメ店」44店

特別協賛：興産信用金庫



10 デザインコース 共立祭展示

デザインコースでは、毎年10月中旬に神田一橋キャンパスで開催する共立祭において、作品展示を実施しています。3年生による各ゼミの課題作品や4年生による演習課題作品が主な展示の内容となり、生活者の視点を大切にした幅広いデザインが並びます。学生が日頃一生懸命取り組んだ作品の発表の場を設け、より多くの学生及び関係者、受験者にみていただく機会を提供しています。



20

11 建築・デザイン学科卒業制作学内展

建築・デザイン学科では、毎年1月中旬に本館1階ロビーや2号館において卒業制作・卒業論文の学内発表展示をしています。一人ひとりの学生がこれまで学んだことの集大成として、作品や論文に取り組んだ成果です。建築・デザイン学科は芸術と異なり、社会に役立つ、人に役立つ事を目的としています。どのような問題提起がなされ、建築・デザイン学科でどのような解決が提案されているのか、それぞれの学生の思いが伝わります。



21

12 卒業制作有志学外展

神保町三井ビルディング管理組合のご好意により、1階ロビーで建築コース、デザインコースの有志による卒業制作展が行われました。(2018年2月11日～14日)

大学内での卒業制作展は毎年行っていますが、大学の外に出ての学外展示はたいへん価値のある事だと思います。来場者も延べ600人を超えました。神保町という地域に於いてこのような機会を得た事に感謝いたします。



22

13 中高大対象のデザインコンペ「わたしtoデザイン」

建築やデザインに興味を持つ女子中学生・高校生、女子大学生を対象とした「わたしtoデザイン」というコンペを開催し、身近な環境にある建築やデザインに気づいてもらう機会を設けています。2017年度の第1回コンペでは、「雨やどり」をテーマに設定。多くの独創的な作品が集まりました。このコンペを、共立女子大学の看板となる取り組みにすべく、これからも盛り上げて行きます。



23

14 建築とデザインの融合 (建築&デザイン総合演習)

建築・デザイン学科は人の生活に必要な「空間」・「もの」を創る建築コース（建築分野、インテリア分野）とデザインコース（プロダクト分野、グラフィック分野）で構成しています。学科のコンセプトである2つのコースの融合を具体化するため、1つ現実のテーマを設定し、そのテーマに対してコース・分野を越えたプロジェクトチームを組織し演習を行っています。現地調査・リサーチによる多視点での物事の把握、他分野とのブレインストーミングにより実践的な創作活動をチーム毎で行っています。



24

1 発達相談・支援センター

児童学科では、学科付設の「発達相談・支援センター」において、地域に開かれた発達・教育相談、子どものためのアート活動などを随時実施して子育て支援を行っています。それらの活動の記録は、継続的に実施されている子育て支援等の研究報告とともに、毎年発行される「発達相談・支援センター報告書」に掲載されます。

(1) 子育てひろば「はるにれ」

子育てひろば「はるにれ」は、地域の子育て親子が自由につどい、親子でゆったりと過ごしていただく施設です。ひろばのシンボルは大きな「はるにれ」の木。親子が楽しみ、親同士の交流をはかる場であるとともに、大学教員が担当する子育て支援講座を年数回実施しています。大学の教育・研究施設としても機能していて、学生がボランティアとして親子と関わっています。



(2) 乳幼児親子グループ「さくらんぼ」

乳幼児親子グループ「さくらんぼ」は、未就園児の親子が、児童学科の教員・学生スタッフとともにゆったり遊ぶグループです。主に近隣にお住まいの親子が参加し、現在は3グループが活動中です。4年生、3年生の学生スタッフが活動計画や準備をし、保育実践の後の反省会まで主体的に参加しています。



(3) 保育研修会

毎年8月初旬に保育研修会を開催しています。参加者は主に本学卒業生の現職保育者ですが、卒業生以外の保育者や一般の地域住民も参加することができます。内容は講演会や保育の現代的課題をテーマとした分科会などです。現職者にとっては学び直しのよい機会であり、保育者のネットワーク作りにも役立っています。



25

2 共立大日坂幼稚園との連携

本学に併設されている共立大日坂（きょうりつ・だいにちざか）幼稚園と密接な連携を保っています。児童学科学生の幼稚園教育実習、学生の幼稚園行事でのボランティア活動、児童学科教員と幼稚園教員による園内研修、児童学科教員による園児の保護者対象の講演会や教育相談などを行っています。



3 児童学科海外研究旅行

児童学科で実施する海外研究旅行では諸外国の保育・幼児教育の施設を訪問し、その国の幼児教育・保育に関する見識を深め、保育者となるための意識をさらに高めることを目指しています。

平成29年度は幼児教育で有名なイタリアのレッジョエミリアを訪れ、様々な施設を見学し、施設職員から話を聴くとともに、実際に子どもたちと交流しました。



4 就職・進路ガイダンス

毎年、4月、7月、1月に、3、4年生を対象として、保育者や小学校教員になるための就職・進路ガイダンスを開催しています。教員や就職進路課からの説明のほかに、就職試験に合格した学生による体験談、また、現職の卒業生による講話などを実施しています。



5 卒論発表会

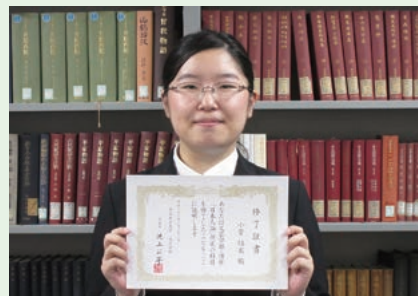
3年次の課題ゼミと4年次の卒業研究の集大成として、卒業論文発表会を毎年1月に開催しています。発表会の運営は3年生と4年生の卒業研究発表会担当者を中心に学生によってなされます。卒業研究のなかから、毎年、2人程度が保育者養成協議会主催の学生研究発表会に参加しています。



I 学ぶ

1 講座

「講座」とは、特定の目標やテーマにそって10～15程度の授業を履修し単位を取得する文芸学部独自の取り組みです。講座群A（実務）は、情報処理検定講座、編集技術講座、英語通訳ガイド講座、フランス語通訳ガイド講座の4講座が、講座群B（文化）は、広告文化講座、編集文化講座、シェイクスピア講座、日本人論講座、ポピュラーカルチャー講座、地中海講座、ジェンダー講座の7講座があります。修了すると講座修了証が授与されます。所属コースで専門性を深める学びとは別に、大学での学びにもうひとつの「自分らしさ」を形にすることができます。



2 動画を活用した授業

授業に動画を取り入れることで、さまざまな視点からテーマにアプローチすることができます。例えば、日本人教員が担当する外国語の授業では、ネイティブの先生による発音講座の動画を用います。また、招聘した学外講師の講演を学内でインターネット配信することで、より多くの学生に聴講の機会が開かれます。入学前の学生を対象にした授業紹介などにも動画を活用しています。



3 十二単着装の見学

平安文学の授業の一環として、十二単の着装見学を行っています。ハクビ京都きもの学院の先生を講師としてお招きし、講義をうかがいながら、着装の仕方を見学します。当時の貴族の女性はほとんど外出することなく室内で過ごしていたわけですが、実際に十二単を目の当たりにすると、いかに衣服に行動が規制されていたかを想像することができます。百人一首の絵札に描かれる女性の座り姿や、ゐぎる動作、衣ずれの音など、資料集を見るだけではなかなか伝わらない部分が見えてきます。着装見学は主に十二単ですが、直衣や狩衣など男性装束も着付けをしていただいています。ちなみに、どちらもモデルは学生です。



4 ゼミ展

1年次の文芸ゼミのうち、須田クラス（絵画）では共立祭でゼミ展を開催し、学生による作品の発表に加え、東日本大震災の震災孤児支援のためのチャリティ活動を行っています。作品はパステル、水彩、油彩、鉛筆など多岐にわたり、毎年好評を博しています。学生にとっては、この展覧会を通じて作品の制作と発表、展覧会の企画、運営、展示、販売などを経験し、机上では得られない多くのことを学ぶ、貴重な機会となっています。また同時に、ゼミ展、チャリティ活動の経験者である上級生や卒業生有志の協力を通じ、学年を超えた多様な交流の場ともなっています。



Ⅱ 読む

1 ブックマラソン

文芸教養コースでは、多くの本に触れて世界を広げることを目的に、特別プログラム「ブックマラソン」を実施しています。このプログラムでは、教員による推薦図書リストと読書ノートを学生に配布し、学生は読書の記録を書きます。共同研究室にはブックマラソン用の書棚を設置し、推薦図書の貸出も行っています。授業にも積極的に導入されており、ブックマラソンのリストから卒業論文のテーマを選ぶ学生が出てくるなど、学生が本に親しむ良いきっかけとなっています。



2 リーディング・マラソン (Reading Marathon)

英語・英米文学コースで行なっているReading Marathonは英語の速読教材を使って、学生の自学自習を支援するシステムです。教材はレベル別に分かれており、単語や文章の難易度そして長さなどを段階的に引き上げてゆくことで、学習者の英語力を無理なく養えるようになっていきます。英語英米文学コースでは42冊の英語速読教材を読破することを目指し、参加者に専用のファイルを配布します。1冊読むごとにスタンプを押す「スタンプ・ラリー」で、学習者のモチベーションを保つ工夫をしています。英文コース学生必修の授業に組み込み、英語力をアップするための体制を充実させています。リテラチャー・サークルの形式を取り入れた読書会は好評です。



3 プレジール・ドゥ・リール (Plaisir de lire)

「プレジール・ドゥ・リール」は読書の喜びという意味で、フランス語フランス文学研究室で実施している、日本語訳でフランス語圏の文学を読むプログラムのことです。フランス語圏文学はバラエティ豊かで、フランスのパリや地方、また、スイス、アフリカ、カリブ海、カナダのフランス語圏の文学を読んで、世界中を旅する気分を味わうことができます。ラ・フォンテーヌ『寓話』、サン＝テグジュペリ『人間の土地』(随筆)、ユゴー『レ・ミゼラブル』・デュマ『三銃士』(小説)、ランボー『地獄の季節』(詩)など様々なジャンルがあります。参加者には、資料やマップなどがついたカラフルな読書手帖が配付され、読了した冊数に応じてお祝いの品が贈られます。自分の世界が広がるような、わくわくするような読書体験が待っています。



Ⅲ 究める

1 日本文学研究旅行

日本に居て日本文学を学ぶ事の利点は、文学の題材となった土地や、作家をはぐくんだ風土について、現地で確かめることが出来る点です。近年、各地の博物館、美術館が整備され、その土地に根差した文学芸術作品を収集し、頼もしいガイドとなっています。また、見学施設でなくとも、作家の住んでいた家やその近所などが風致地区として残っている場合もあります。こうした日本文学の舞台を巡る旅はどの大学でもやっているありふれた行事ですが、この研究旅行の特徴は、日本文学演習を履修する学生有志が計画を立てるという点にあります。



2 造形芸術研究旅行

造形芸術コース所属および美術史をテーマとした卒業論文を予定している2・3年次生を対象に、隔年で2泊3日の研究旅行を実施しています。研究旅行では作品の「実物」を鑑賞し、美術に関するさまざまな問題について議論し、物事の本質を追究するよう指導しています。メディアを通じて多くの情報が容易に得られる時代だからこそ、自分の目で確かめ、自分の言葉で考え、表現する機会をもつことは非常に大切です。



3 フランス語フランス文学コース研究旅行

フランス語フランス文学コースでは、毎年研究旅行を実施して様々な場所を訪れ、フランス語やフランス語圏の文化を学んでいます。軽井沢寮でフランス語強化合宿をした年もあれば、世界遺産になった富岡製糸場（設立時にフランスの協力がありました）や、箱根にある星の王子様ミュージアムを見学するなど、その内容は多岐にわたります。昨年度は箱根のポーラ美術館を訪問し、「ピカソとシャガール」展を鑑賞しました。例年、国内での研究旅行にはフランス、スイス、そしてアフリカのベナン共和国からの交換留学生たちも参加しており、フランス語での会話や文化交流が生まれることも。教員、助手、学生、留学生の間で、そして学生同士でも学年を超えて、親睦を深める機会になっています。

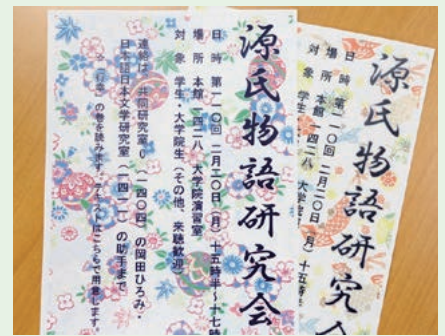
39



4 源氏物語研究会

源氏物語研究会では、月1回、源氏物語の読書会を行っています。研究会参加者は、日本語日本文学コースに所属する学生だけでなく、源氏物語の英語訳を卒業論文のテーマに選んだ英語英文学コースの学生や、文芸教養コースから文芸の大学院に進んだ院生、家政学部を卒業したのち日本文学に興味を持った卒業生等、バラエティにとんだ顔ぶれです。今年度はいわゆる玉鬘十帖を読みすすめており、真木柱巻までたどりつきました。1回の読書会で4～5頁ずつゆっくり読み、語り合うことで、大勢で読むからこそ深まってゆく「読書」を楽しんでいます。

40



5 文芸メディア研究集会

文芸メディアコースでは、メディアに関連のある様々なジャンルの方を、主に外部から講師としてお招きしています。コースの学生だけでなく学部内の学生に広く参加を呼びかけています。1時間ほどの講演後、30分ほどの質疑応答の時間を予定していますが、毎回時間オーバーしてしまうほどメディアに対する文芸学部学生の関心は高く、また講師の方たちもそれによく応えてくださいます。今後も、より革新的に、より創造的にさらなる内容の充実をはかってゆきたいと、コースの教員一同、考えています。

41



6 「私が読んだ一冊」ポスター発表

英米文学研究Bの授業では、自分が読んだ文学作品の魅力をポスターにまとめ、それを鑑賞しコメントし合う機会を設けています。一冊の本についてポスター一枚で伝えるには、その作品についての客観的知識だけでなく、自分がその作品のどこに「良さ」を感じたのか、深く考えることが必要になります。学生にとっては作品とじっくり向き合う契機となっているようです。また、他の学生のポスターを見たことで未読の作品に関心を抱き、次に読む作品が決まった、という声も多く聞かれます。

42



Ⅳ 楽しむ

1 フランス語劇上演

1970年に仏文学コース5期生が神保町の岩波ホールを借りてモリエール作『町人貴族』を上演したのが「フランス語劇」の始まりです。その後歴史をかさね、『千夜一夜物語』や日本の昔話のパロディーをフランス語劇に仕立てた作品は、学外にも招待されました。また『洋なし太郎の冒険』、『サンドリヨン』は好評で、その脚本はNHKフランス語講座テキストで紹介されました。現在ではフランス語フランス文学コースの2・3年生を中心に上演チームを編成し、共立祭で公演を行っています。字幕や音楽、ポスターデザインなどの裏方も学生が担当しています。2016、17年度は、フランス語劇の原点にかえり、モリエールの代表作『ドン・ジュアン』を2年かけて前編・後編と上演し喝采を浴びました。脚色、演出、フランス語の発音および演技指導にはさまざまな方々にご協力いただき、コースをあげて舞台の成功に向けて取り組んでいます。



2 合同観劇会

劇芸術コースでは「合同観劇会」があります。半期に一度、年二本、教員が選定した舞台作品を観劇し、その所感を観劇レポートにまとめて提出するというものです。作品は一本が現代劇、もう一本が歌舞伎や文楽などの古典芸能から、劇芸術コースの授業内容に資する作品が選ばれます。観劇前には教員が作品解説と鑑賞のポイント紹介をします。高いチケットが買えない、又は鑑賞作品の選択に困る学生でも話題作が低価格で見られます。近年の観劇作品は、世田谷パブリックシアターの『子午線の祀り』と国立劇場の『隅田春妓女容性』でした。コースの教員・学生全員で同じ作品を鑑賞するので、全員で舞台について話し合う良い機会でもあります。

V 称える

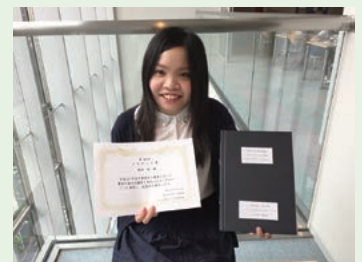
1 さくら賞

「さくら賞」は、1967（昭和42）年に、文芸学部における当該年度最優秀卒業論文・卒業制作を顕彰するために設置され（発足当初の名称は「サクラ賞」）、半世紀近くになんた文芸学部学生たちの卒業論文・卒業制作取り組みのモチベーション・アップに大きく貢献してきました。例年、受賞者には学部長の手により賞状と記念品が卒業証書とともに学位記授与式の際に授与されています。また「さくら賞」を受賞した造形芸術コース学生の卒業制作作品は、全学の入試広報用パンフレットや文芸学部独自の広報活動に使われることも多く、卒業制作に取り組む造形芸術コース学生たちの大きな励みとなっています。



2 マリアヌヌ賞

マリアヌヌとはフランス共和国を象徴する女性、母性や自由などの理念のアレゴリーです。「民衆を導く自由の女神」（ドラクロワ）の果敢なマリアヌヌは素敵だと思いませんか。フランス語フランス文学コースでは、毎年卒業祝賀パーティで優秀な卒業論文の執筆者を表彰しています。卒業生がマリアヌヌのように、しなやかにしたたかにそして幸せに生き抜くようにと願い、この賞は、マリアヌヌ賞と名付けられました。受賞者には、南仏プロヴァンス陶器のお皿が贈られる習わしです。学生たちはフランス語やフランス文学また音楽、映画やバレエなどフランス語圏文化に関するテーマの面白い卒論を日本語またはフランス語で書いています。



3 文教賞

文芸学部における年度最優秀卒業論文・卒業制作に授与される「さくら賞」の候補作推薦は、原則として各コースから1つとされているため、各コース内で選考を行ないますが、甲乙つけがたいことも多く、選考には各コースとも苦勞しています。そこで文芸教養コースではコース内の「さくら賞」推薦候補作すべてに「文教賞」を授与しています。毎年10作ほどの「文教賞」には、賞状と記念品が卒業証書とともに学位記授与式の際に授与されており、学生の卒業論文執筆の際のモチベーション・アップに寄与しています。



4 すみれ賞

「すみれ賞」とは、劇芸術コースで特に優秀と認められた卒業論文や卒業制作（戯曲もしくはシナリオの創作）作品に対して授与される賞です。卒業式後のコース別学位記授与式の際、表彰状と賞品の贈呈式を行います。「すみれ賞」は、文芸学部全体から選出される「さくら賞」の候補になりながら惜しくも受賞には至らなかった論文・作品に対する教員からの賞賛を形に残したいという思いから生まれました。受賞作品の一部は『櫻雲』に掲載されます。小さくても凛としたすみれのように、教員からのエールが受賞者の心に咲き続け、卒業後の人生を励まし、また後に続く学生たちの道標になってほしいとの思いが込められています。



5 プリマヴェーラ賞

造形芸術コースでは、4年次の卒業論文発表会及び卒業論文・卒業制作展を通じてもっともすぐれた論文または作品を選考し、これにプリマヴェーラ賞を授与しています。それとともにすべての論文・作品の概要を「プリマヴェーラ（イタリア語で春の意）」と題する冊子にまとめ、毎年発行しています。そこには各人の4年間の軌跡と成長がうかがわれ、実に興味深く、感動的ですらあります。



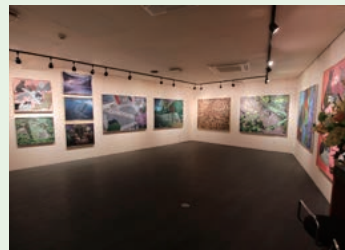
6 英語英米文学コース卒業論文報告会

英語英米文学コース4年生では全員参加の卒業論文報告会を行っています。昨年度は一人ひとりが自分の論文の内容を表すポスターを作成し、論文の趣旨を発表しあう、ポスター・プレゼンテーションを行いました。文学・文化・言語学・英語教育など、改めてコースの研究分野の幅広さを実感する機会でもあります。力作揃いのポスターと小さなグループでの口頭発表で、お互いの研究への理解が深まりました。報告会は半日がかりの楽しいイベントです。



7 絵画卒業制作・学外展

造形芸術コースの卒業制作ゼミでは、学内での卒業制作展の後、銀座の画廊で毎年学外展を開催しています。銀座の画廊での展覧会は実に晴れがましいことですが、一方では専門家の厳しい視線に耐える作品であるか、学生にとっては緊張の展覧会でもあります。「毎年楽しみにしていますよ」といって下さる方もいらっしゃって、学生にとっても教員にとっても励みになります。会場には卒業生たちも来場し、旧友との再会の場となり、学内、学外を問わず多くの出会いが生まれています。



VI 伝える

1 『文藝学部報』

『文藝学部報』は1968年の発刊以来、文芸学部の教育・研究活動を内外に伝えてきました。企画・編集から原稿の依頼・受け取りまであらゆる業務を、学生と教員の間を媒介する各コース研究室の助手たちが担ってきました。『文藝学部報』は、自由闊達な文芸学部らしさを伝えるメディアであり、毎号組まれる特集記事は、文芸学部らしい興味深い読み物にもなっています。



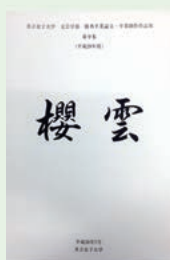
2 『K-RITs』

DTP基礎実習Bという授業では、雑誌『K-RITs』を制作します。履修者全員が神保町を広く取材し記事を書き編集にあたるのです。企画書を作成し、取材先の店舗や施設などに連絡をとって協力を仰ぐ作業から、写真を撮影しインタビュー記事を書き、取材後DTPソフトでデータをまとめるところまで、指導教員と一丸となって取り組みます。様々な問題を乗り越えながら「協力」や「社会貢献」の経験値を積むことをねらいとしたアクティブ・ラーニングは、学生にとってかけがえのない経験となるばかりか、就職活動を行う上でも役立っています。なお『K-RITs』はオープンキャンパスで希望者に配布しています。



3 『櫻雲』

文芸学部最優秀卒業論文・卒業制作に授与される「さくら賞」受賞作とともに候補作から選抜された論文・制作の概要を掲載する作品集を、『櫻雲』という名称で2010年から発行しています。『櫻雲』の存在は、文芸学部学生のモチベーション・アップに大きく貢献するだけでなく、3年次学生対象の卒業論文・卒業制作ガイダンスの際に配布され、卒業論文・卒業制作の大切な資料となっています。



54

4 『卒業論文・卒業制作概要集』

造形芸術コースでは、卒業論文と卒業制作の概要をまとめた冊子を毎年発行しています。1人1ページずつ、卒業論文の場合は論文の要旨と執筆後の所感、卒業制作の場合は作品の写真と本人のコメントを掲載しています。分野は西洋美術史、日本美術史、絵画、彫刻の4つですが、内容は中世から現代まで、西洋から日本まで、人物あり、動物あり、抽象に至るまで、多彩です。



55

5 『文芸FD報告』

文芸学部では、独自に行ってきた教育改善の様々な試みの締めくくりとして、教員が一年間自分の担当した授業を振り返り、それを共有するものとして『私の授業を振り返って』を発行してきました。こうした内容を引き継ぎつつ、さらに将来を見据えあらゆる関係者に説明責任を果たすべく、本年度より『文芸FD報告』として内容を刷新することとなりました。前身と同様に、この『文芸FD報告』は学内外に配布されるだけでなく、PDFでも公開される予定です。



56

6 『文学藝術』

1968年、当時文芸学部付設されていた文芸研究所の機関誌として『文学藝術』が創刊されました。以来、『文学藝術』では毎号特集を組み、論文だけでなくエッセイ、研究余滴、回想録など多彩な表現を許容しており、専門の垣根を越えて思考し、実践する、文芸学部の気風を体現したメディアとなっています。現在は執筆者は全学の教職員に及んでいます。



57

7 『タ・ケパライア』

文芸教養コースでは2017年度より、卒業論文の概要をまとめた冊子を制作しています。タイトルはギリシャ語で「総仕上げ」を意味し、ゼミごとに1人1ページ、タイトルと目次・要旨、2、3年生に向けた一言メッセージが書かれています。卒業生にとっては自分とゼミ・コース生の学びの集大成となり、またこれから文教コースで卒論を書こうとしている学生にも参考になると好評です。



58

VII 出会う

1 「OGネットワーク」によるキャリア支援

文芸学部卒業生の交流組織である「文芸OGネットワーク」では、2011年よりOGの立場から「在学生の就職支援」に踏み出し、働くことへの認識を深めるトークイベントを継続的に行ってきました。文芸学部の学生にとって適切な就職支援とは何か、先輩としてできることは何かをともに考えながら、社会に出る前のウォーミングアップとしてOGネットワークの活動を利用いただけるようなサポート体制を整えていきます。



2 桜会展

「桜会展」は桜会会員による展覧会です。桜会とは主に絵画ゼミ卒業生の集まりであり、その名称は共立女子大学の校友会である桜友会の桜に由来します。そのきっかけは、2012年に、桜友会のサポートにより神保町すずらん通りの檜画廊で開いた展覧会です。始まってからまだ日の浅い取り組みですが、長い伝統を誇る共立女子大学の絵画教育の成果を体現するものであり、絵画を志す在学生や文芸学部を志望する高校生にも良い刺激となっているようです。桜会が卒業生と在学生の、年齢や肩書き、学年を超えた出会いと交流の場として発展することが期待されています。



国際学部 Faculty of International Studies

I 新しいカリキュラムーGSEプログラム

1 GSEの取り組み

2016年度発足のGSE (Global Studies in English) は、グローバル社会におけるビジネスや日米英等の社会について、英語が母語の教員を中心に講義・ゼミを行い、卒業に要する単位の半分(62単位)を英語で修得するプログラムです。2017年度には新任教員2名が加わって4人のネイティブ・スピーカーが担当しています。こうした充実した指導体制の下、GSEでは、通常の必修外国語に加え、インテンシブ・クラスで英語力を鍛えるとともに、専攻分野と相まった確かな専門知識および幅広い国際教養の修得を目指します。GSEでの学びの集大成として、少人数のゼミナールにおいて英語で卒業研究を行います。



II 長期留学および語学研修

1 国際学部学生の海外留学

グローバル人材育成の必要が広く認識される中で、近年国際学部では在学中の海外留学が増えています。留学先は大学や学部の協定校にとどまらず、学生自ら調べた上で選んだ大学も少なくありません。

62

2 留学で取得した単位の認定

国際学部では、長期留学しても4年間で卒業できるよう、留学先で取得した単位を積極的に認定しています。2016年度においては、1年間留学した者の88%が20単位以上、46%が30単位以上の単位認定を受けており、無理なく4年間で卒業することができます。休み時間も含めた厳密な授業時間換算に基づき、単位認定を行っています。

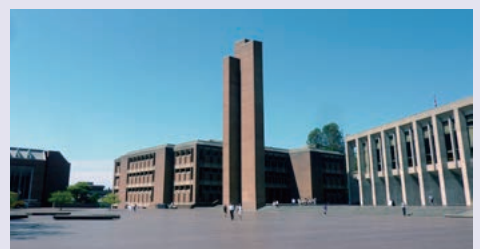
63

III 国際学部短期語学研修プログラム

1 州立ワシントン大学

アメリカ西海岸の州立ワシントン大学において夏季休暇期間を利用して行う、ホームステイとセットになった約25日間の英語研修プログラムです。州立ワシントン大学は、西海岸地域のみならず、全米でもトップクラスの名門として知られています。

64



2 ダブリン・シティ大学

穏やかな気候に恵まれたアイルランドの首都に立地するダブリン・シティ大学において行う、ホームステイを含む約30日間の英語研修プログラムです。2012年より開始され、夏季休暇期間および春季休暇期間の年2回行われます。

65



1 フルブライト招聘講師

アメリカの現職大学教員であるフルブライト招聘講師により、長年英語での特別授業を実施しています。これらの科目はGSE科目としても履修可能になっています。

国際学部では長年、日米教育委員会によるフルブライト交流事業の一環として日本に派遣されたアメリカ人研究者を招聘講師として受け入れ、本学専任教員サポートの下、授業を担当していただいています。

これにより、アメリカの大学で行われている授業を日本においても体験することができます。



2 海外研究旅行

学部授業の一環として毎年海外研究旅行を実施しています。

オリエンテーションや事前授業への参加などを経て、夏休み、春休みなどに海外研究旅行に参加し、帰国後にレポートを提出すれば、「海外事情／フィールドワーク」として2単位を取得できます。2017年度はドイツ（2018年2月・14名）への研究旅行が実施されました。旅行先では現地大学の学生との交流・討論なども行われ、同世代の若者たちの考え方やライフスタイルを学ぶ機会にもなりました。



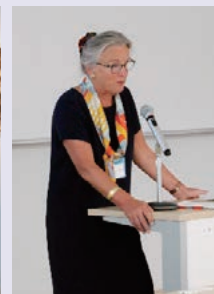
3 学生の国際交流

2016年度に引き続き、2017年度も、国際学部2名の学生が8月28日～9月3日の日程で、日中文化交流協会大学生訪中団に参加し、北京、貴州、上海を訪問しました。万里の長城、北京大学、故宫博物館、貴州省にあるビッグデータ発展センター、貴州民族大学、黄果樹の滝及び上海の豫園、外灘などを訪れ、中国の伝統文化に触れ、現地の大学生と交流を行いました。



4 教員による研究交流

国際学部では、専任教員によるアメリカ・ヨーロッパ・アジア等の学術機関との多様な研究交流が行われています。立地条件の良い本学では、国際的な学会の会場となることも少なくなく、著名な海外研究者の講演も行われています。こうした研究上の成果は、いろいろな形で学生の教育にも還元されています。



1 さまざまな授業形態

「映像文化論」(2018年度)

現代社会において重要なコミュニケーション手段である表象について理解を深めるための授業として「映像文化論」を開講しています。この授業は、現在映画製作の第一線で活躍し国際映画祭で受賞している映画監督、撮影監督、美術監督、プロデューサー、脚本家の先生を講師として招いてオムニバス形式で行っています。

制作者の言葉を直接聞ける大変贅沢な授業で、毎年200人近くの受講者がいます。



「国際文化特論Ⅰ」(2016年度)

リオ五輪に先立つ2016年前期に、国際的なスポーツの祭典であるオリンピックを主題とする「国際文化特論Ⅰ」を開講し、オリンピック（パラリンピック）をめぐる政治、社会、文化の諸問題について、さまざまな地域で開催された大会や、国際スポーツ機関としてのIOCの役割など、教員の多様な専門分野を活かした輪講形式で授業が行われました。2020年度の東京オリンピックに合わせて2020年度も同様の授業を開催する予定です。

「国際文化交流論」

国際文化交流事業の第一線で活躍する講師を、独立行政法人国際交流基金より招聘して行う輪講授業です。中国、東南アジア、南アジア、中東、フランス、アメリカなどとの文化交流、国際文化交流の理論、日本語教育などの幅広いテーマについて、それぞれの分野で実績を積んだ専門家からお話をうかがうことができる特色ある授業です。

「Topics in US society」

“Topics in US Society”は、現在のアメリカ合衆国社会の諸課題について考える入門レベルの科目です。クラス全体や小グループでの討論、さらにインタラクティブなミニ講義など、教員、学生、そして外国人ティーチング・アシスタント（TA）の間で多くの対話がある、とても活発な授業です。



2 活発なゼミ活動

(1) 基礎ゼミナール、国際入門演習

1年生を対象とした基礎ゼミナールでは、教室で学ぶだけでなく、共立の立地を活かし、大学周辺にある博物館、美術館などさまざまな文化機関や、国際協力などグローバルな視点から活動している組織を訪ねて見学し、視野を広げる試みを行っています。



(2) 国際基礎演習Ⅰ、Ⅱ

前期、後期で2つのゼミに属し、研究テーマ、方法などを学び、国際専門演習の選択に役立てています。

(3) 国際専門演習、国際卒研演習

国際専門演習、国際卒研演習は同じ教員とメンバーとなり、見学や合宿などを交えて各ゼミの特徴ある活動が行われています。



3 卒業研究の成果発表と優秀論文の表彰

2016年度より、国際学部では卒業研究について従来から行われてきた中間発表会に加え、提出後に全ゼミ、全学生参加による公開の成果発表会を開催し、1年間の努力の結晶をプレゼンテーションすることになりました。また、優れた卒業研究（論文）を表彰する制度も導入し、2016年度は約280本の論文のなかから、分野別に5本が選ばれ、『優秀卒業論文集』が製本、配布されました。



4 学部講演会

毎年様々な分野で活躍している方を外部講師としてお迎えし、講演会等を企画しています。

海外体験豊富な専任教員の人脈を生かして、美術館の館長、グローバル企業の経営者、国際機関事務局の元幹部、テレビ局のディレクター、料理外交に詳しいジャーナリスト、世界的に活躍する音楽家などによる、他ではなかなか聞けない講演会を、年2～3回のペースで実施しています。また、1年次生を対象に、グローバル企業等で活躍する先輩達を招いて、学生時代の過ごし方や就職活動等の体験を語ってもらう企画も行っています。

基礎ゼミナール講演会

国際学部では、2018年6月28日に、毎日新聞社の記者である大貫智子氏を講師としてお招きし講演会を開催しました。題目は「暮らしの中からみた日韓関係」であり、大貫氏のソウルでの特派員生活のご経験をもとに、韓国社会の在り様と変化、また日本との比較や関係についてお話いただきました。現地で生活された方ならではのお話を伺うことのできる大変貴重な機会となりました。



国際学部講演会

国際学部では、2018年11月15日に、国連と政府の双方で数多くの要職を歴任されてきた大島賢三氏を講師としてお招きし、講演会を開催しました。大島氏のご経験をもとに、最近の国際情勢や日本との関わり、また、国連の現状と課題についてお話いただきました。留学者も多く、世界に目を向ける国際学部の学生にとって、知的関心を刺激される大変貴重な機会となりました。

VI 広報活動の展開

1 教員リレー・エッセイの実施

ホームページを活用した広報活動の一環として、2017年度から、各教員がリレー形式でエッセイを執筆し、公開しました。それぞれの研究やそれ以外の関心にもとづく内容で、国際学部で教壇に立つ専任教員のプロフィールとして、受験生向けだけではなく、ゼミの選択に際しての情報としても活用されています。ゼミの選択には、さらに教員の自己紹介やゼミ生による紹介からなるページを作成し、学内向けに公開しています。



2 学生広報委員の活動

これまでの学部広報活動はもっぱら教員のみによって行われてきましたが、2017年度には受験生や在校生の関心に沿うべく、学生広報委員を募集し、十数名の参加を得ました。その活動は、国際学部での学びに関連する独自の取材記事の執筆、広報活動の改善にかんする提言など、多岐に及んでいます。2018年度はさらにその活動を拡充する予定です。



3 国際学部特製オリジナルグッズの作製

国際学部では、後援会の支援を得て、トートバッグ（GSEプログラム用）、およびエコバック（学部全体）を作製し、鍵（「世界の扉を開く」国際学部の学びの象徴）の形のアクリルチャームとともに、在校生に配布しました。デザインなど作製に当たっては、教員、助手だけではなく、学生広報委員たちも参加し、使用者の目線から意見や注文を出してくれました。



VII 就職活動支援

1 マナー講習会

国際学部では、2018年7月5日(木)17時より本館1010教室において、インターンシップを直前に控えた学生を対象に、外部講師を迎えての「インターンシップ・マナー講座」が開催されました。学生達は、国内線・国際線の元キャビン・アテンダントの講師によるユーモアを交えた豊富な経験談に聞き入り、また流れるような美しい所作には目が釘付けとなっていたようです。



2 JICAボランティア・セミナー～いつか世界を変える力になる

国際学部では、2018年6月14日(木)に独立行政法人国際協力機構（JICA）の協力を得て、青年海外協力隊経験者の畑野あい子氏を講師としてお招きし、「JICAボランティアセミナー～いつか世界を変える力になる～」を開催しました。ベトナム社会主義共和国で活動した方の講演に学生たちは熱心に耳を傾けていました。



VIII 刊行物

1 『国際学部リブレット』

新入生に配布する学部での学びに関するガイドブック『国際学部リブレット』を毎年作成しています。1年の入学時に配り、4年間の学びの指針となっています。



2 『プロスペクタス』

国際学部の教員や卒業生のエッセイ、インタビューなどから構成される小冊子です。各号テーマを定めて、さまざまな観点からの教員や学生のコミュニケーションの舞台となっています。2015年度は「今に生きる私の国際体験」、2017年度は「『グローバル化』の新たな段階」となっています。

なお、バックナンバーの多くは学部HP上で閲覧、ダウンロード可能です。



I 看護実践能力向上への取り組み

1 OSCE

本学部では、臨床実習開始前に、模擬患者に対して看護実践を展開し評価を受ける、OSCE（Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験）を取り入れています。OSCEは、1970年代に英国の医学教育に取り入れたのを皮切りに、欧米、カナダへと広がり、1990年代には日本の医学教育の中でも試みられるようになりましたが、看護学教育に導入されたのは2000年以降であり、全国でも看護学教育への導入はまだ数少ないです。学生は、3年前期を通じてシミュレーター等を用いて、OSCEの課題について自己学習を繰り返すことにより、実践力が育成されていきます。OSCE終了後には、臨床実習への通行手形である「修了証」を授与して臨床実習に向けた宣誓を行う修了式を執り行い、皆で実習に向かう気持ちを高めあいます。



II 看護学部7領域の取り組み

II-1 基礎看護学

1 デモンストレーション動画を活用した「基礎看護技術論」

この科目では、大学で初めて「看護技術」を学習します。

これから学ぶすべての看護技術のベースとなる、『知識・技術・態度』として、コミュニケーション・感染予防・療養環境調整・ボディメカニクス・看護師としての所作などを学習します。

初めて看護技術を学ぶ学生が技術の根拠や留意点を理解し、正しく技術を習得できるようにデモンストレーション動画教材を作成しています。動画は天井からは俯瞰的に、また側面から看護師の動きの詳細を撮影し、e-learningで繰り返し視聴できるようにしています。

動画で技術を撮影するメリットは、自身の技術を繰り返し見直すことができ、振り返ることで技術の上達につながることもあります。

看護技術は反復練習で上達しますので、この科目を通して自己練習する習慣を身に付けてもらえるように工夫をしています。

例えば、自己練習を十分に行って技術試験を受けられるよう約1か月半の練習期間を設けています。自己練習には時々教員も参加し、演習では質問できなかったことなどに答えたり、実際に技術を見せて指導したりもしています。

従来の技術試験は試験官の眼前で、1人で実施する方法でしたが、学生の緊張感を軽減し、何度も納得するまでやり直せるように、動画でベッドメイキングを撮影し提出するようにしています。



基礎看護技術動画ホームページ



体位変換：上方水平移動の動画

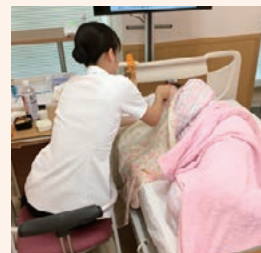
2 基本の看護技術を学ぶ「日常生活援助技術論」

この科目では、看護師の業の一つである『療養上の世話』にあたるベーシックな看護技術を基礎看護技術論で得た知識・技術・態度を活用しながら修得していきます。

援助方法は患者さんの状況によって変化しますので、その変化に対応できる思考を身につけられるよう教授しています。紙上患者さんを設定しての援助の実施も、その教授方法の一つです。

学んだ技術は、学生個々が「虎の巻」としてまとめ上げていきます。この「虎の巻」は、病院実習の際にポケットに入れて持ち歩くことのできるポートフォリオです。学生はこの「虎の巻」を持って2年次の病院実習に向います。学生は、大学での学習が実題に繋がっている事を実感します。

また、毎回の講義終了後にはweb上での小テストを実施しています。この小テストは、過去の看護師国家試験問題をともに作成していますので、早期から、国家試験問題に慣れてもらうことはもちろん、今、学んでいる内容の全てが将来に繋がっている事を理解してもらうためにも役立っています。



3 最新の診療機材を用いて学ぶ「医療支援技術論」

看護師の業のもう一つである『診療の補助』として、看護の対象が診療を受けるための、感染予防、薬物療法、検査などの治療処置時の援助の修得を目指しています。

病院などの施設でも使用している酸素吸入器や吸引器、あるいは心電図モニターなどの機材を取り揃えて、臨場感あふれる技術演習を行います。また、多彩な学習支援の動画教材も配信しています。



①口を左右に引き、患者の顔の上でクリップをとめる。
②クリップが患者の上唇外側になるようにし、内側の皮膚をはさまない。
(ヒダは患者の左腕で採血する場合)
③はずすときは、クリップをゆっくり開く。



4 シミュレーターを多用した「ヘルスアセスメント論」

この科目では、患者様を全人的に観察する技術を習得していきます。

主には、血圧測定などのバイタルサインズ測定技術、聴診や触診などのフィジカルイグザミネーションなどです。

身体的な部分だけに着目して観察するのではなく、心理的・社会的側面からも患者さんを理解できるよう、知識・技術・態度を教授しています。

ヘルスアセスメントは、患者さんを理解し、個々に合わせた看護技術を行うためのベースとなる知識・技術です。

アセスメント力を習得するために、異常な心音や呼吸音などを聴取できるシミュレーターを多用したシミュレーション教育を実施しています。

シミュレーション教育

シムマンやラングといった高機能のシミュレーターを用いて、異常な心音や呼吸音を学習し、正常と逸脱の違いが分かる判断力を磨きます。



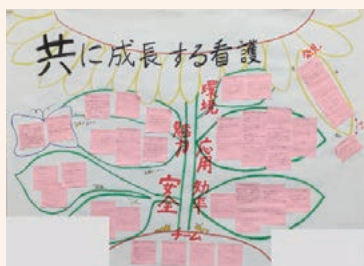
5 問題解決思考に支えられた「看護過程展開論」

看護実践において思考の基本となる看護過程の展開について理解することを目的としています。「問題解決思考と行動」の観点から理解し、実践できるように学びます。また、看護過程を支える様々な看護理論についても理解を深め、演習を通して学習します。

6 ワールドカフェとプレゼンテーションで学びをシェアする実習

1年次は、看護の役割と機能および患者の生活の場を理解することを目指して、まずは体験してみる（early exposure）実習を行っています。看護者としての自覚を促すとともに、学習への動機づけとなるよう支援しています。実習後にはワールドカフェで学びをシェアし、お互いを高めあう場を設けています。

2年次には、一人の患者さんを受け持ち、看護過程を用いて看護を展開し、基本的な知識・技術・態度を身につけ、これまでの学習を統合し、応用する実習をします。自己の課題を明確にし、看護者としての自覚と学習への動機づけとなるようにバックアップしています。終了後はグループワークとプレゼンテーションで学びを共有しています。



II-2 小児看護学

1 アクティブラーニングを取り入れた小児看護学援助演習

小児看護学援助演習では、学生は事前学習として取り組んだ課題ノートを参考に、技術の実施をとおして自分達で課題に対する解決案を創っていきます。実施した内容はグループワークで共有し、話し合いを通して新たな疑問や応用的課題を見いだしていくアクティブラーニングをします。そして、学生自身で工夫して課題に取り組みながら、効果的方法・解決策を見いだしていきます。

小児看護学は身体測定一つ取っても、小児ならではの方法や、特異な状況が幅広いため、様々な状況に合わせて援助の方法を創出する力が求められます。自分たちで考え、状況に見合った援助を導き出す学習は、学生にとって決して容易ではありませんが、学生たちは「難しいけど楽しい」という知的好奇心を持ちながら学習しています。

実習室がリニューアルされたことで、十分なスペースが確保できるようになり備品も充実しました。それにより、よりきめ細かい授業展開が可能となり、学生も活き活きと学んでいます。



II-3 母性看護学

1 千代田区における母子保健向上のための「妊婦サロン」の運営

平成29年4月より、看護学部教員である助産師と看護学生が中心となって、妊婦が快適なマタニティライフを過ごし、心身共に良好な状態で出産の準備を行い、親子が健やかな生活をできることを目指した「妊婦サロン」の運営を千代田区の助成を受けて行っています。

学生は看護学部3年生後期～4年生前期にかけて履修する母性看護学実習の一環として、母性看護学援助演習（看護学部3年生前期科目）で修得した看護技術を用いて、妊婦の診察、育児技術の提供を行います。妊婦との交流を通して、妊娠期の女性の理解を深めています。



2 4年生が3年生へ母性看護技術提供を指導する「ピアエデュケーション」

学生は学内演習により、妊婦・褥婦の腹部モデルや新生児モデルを使用した妊婦・褥婦・新生児の観察や各時期に必要な看護技術を習得後、臨床現場で受持ち対象の母子や妊婦サロンでの妊婦へ看護を実践します。平成30年度の母性看護学演習では、すでに履修を終えた4年生が3年生に母性看護技術を教授する「ピアエデュケーション」を試み、教える側、教わる側、双方の効果について検証しています。



II-4 成人看護学

1 成人看護学の概要

成人看護学領域は、患者さんの身体が病気やその治療で急激に悪化したり、回復したりする時期の急性期・回復期ケア、病気が慢性的な経過を辿り、死を迎える時期の慢性期・終末期ケアに、大きく分かれます。

2 シミュレーション演習で学ぶ周術期看護

急性期・回復期ケアでは、手術を受ける患者の看護や病気や交通事故などで障害を受けた患者のリハビリテーション看護について学習します。成人看護学援助論Iで手術を受ける患者の事例を用いた看護過程の展開を学習し、同じ事例を用いて援助演習では術直後の患者の観察や酸素療法、輸液療法、疼痛緩和などの看護技術について学習しています。また、感染管理専門看護師より、臨床現場における周術期患者に対する感染予防の実際を講義していただき、実践的な看護が学べるようにしています。



3 腎臓病食の試食や患者・家族の役を演じて学ぶ授業

慢性期・終末期ケアでは、学内の授業を通して、病気で闘病中の患者さんの気持ちを体験し、そのケアを患者さんの立場から考えるために、腎不全の患者さんの食事を試食したり、身体の観察や生活指導を受ける患者さんや家族の役を演じたりしています。また、臨地実習の最終日には、異なる実習施設の学生が一同に介して、患者さんのケアについて発表し、実習で行ったケアが科学的な根拠に基づいた個別的なケアであったのかを考える機会を持っています。これらの体験を通して、学生たちは患者の気持ちや生活を尊重した看護を学習していきます。

93



II-5 高齢者看護学

1 高齢者看護学実習Ⅰでの巣鴨地藏通り商店街探索

看護学部3年生が、高齢者看護学実習Ⅰの一環として、巣鴨地藏通り商店街の探索を行いました。この実習では、「赤いパンツ」「グルメ」「信仰」など、グループごとの学習課題に即して地域の探索や街の人へのインタビューを行い、「高齢者が暮らしやすいまち」が持っている要素について学びます。写真は、「信仰」の課題に取り組む学生の様子です。



この実習では、別日に行われた認知症サポーター養成講座体験受講や通所施設実習を通して、地域包括ケアへの理解を深める機会となりました。

2 認知症サポーター養成講座の体験受講

看護学部3年生が、高齢者看護学実習Ⅰの一環として、認知症サポーター養成講座を受講しました。当日は、千代田区高齢者総合サポートセンターの相談員の皆さまが講師を務めてくださいました。



講義に続き、教材DVDのコンビニエンスストアでの対応場面を視聴し、買い物にきた認知症の方が何に困り、店員にはどのような対応が求められるのかを、グループで話し合い、共有しました。最後に、講師の方から受講者全員に、サポーターの証であるオレンジリングが手渡されました。

95

II-6 精神看護学

1 精神障がい者の当事者による「病気の体験」の語りから学ぶ特別講義

「精神看護学概論」では、精神障害の当事者の「病気の体験」を何う体験授業を実践しています。

看護学部2年生前期の「精神看護学概論」の授業では、精神障害の当事者の方々をゲストスピーカーとしてお招きし、「病気の体験」や、「当事者からみた精神医療」についてお話していただきました。

2018は、3名の当事者の方々にお越しいただきました。当事者の方々が医師から告げられた病名は、統合失調症や気分障害（うつ病）などですが、当事者の方たちは、ご自分がなぜ病気になってしまったのか、過去においてどのような病状であったのかを自己分析し、どのように病気を受容し、病気と付き合っているかなど、分かりやすくお話していただきました。学生たちは、精神疾患をより身近に感じる事ができ、さらに辛い体験を乗り越えて当事者の方たちが病気を受容し、病気と上手く付き合っていることを知ることで、看護学生として当事者に対する精神疾患のケアの方法を学ぶことができました。



96

1 時代のニーズに応える地域・在宅看護学教育

近年保健医療システムは「入院」から「在宅（地域）」中心へと大きく舵を切り、看護師教育においても、「生活する人々」を対象とし、「生活の場」で行う看護を学ぶ重要性が高まっています。本学では、「地域看護」と「在宅看護」を連動させながら学修するプログラムを展開していることにより、様々な専門職種、機関のみならず、生活する人々自身と協働して、生活の場（地域・在宅・産業・学校）に必要な資源を生み出したり、調整を行ったりしながら、生活する人々の心身の状態を向上させ、よりよく生きる助けとなるための支援方法について、効果的に学ぶことができます。実習においても、在宅看護（訪問看護ステーション）と地域看護（地域包括支援センター）の両要素を取り入れて、地域で働く看護職として、また地域と連携して働く病院看護師として不可欠な考え方・スキルが取得できる教育プログラムを構成しています。



2 豊富なアクティブラーニングと実践家による講義

講義では、学修者主体のグループワークや課題解決型演習を豊富に取り入れ、知識の修得に留まらず、看護実践に不可欠な、コミュニケーション能力、協調性、リーダーシップ、思考力等の基礎的能力も同時に育成するプログラムを展開しています。

また、地域看護や在宅看護の第一線で活躍する看護師から実践活動についてご紹介いただく講義を効果的に取り入れることにより、授業で学修した理論や方法論と実践のつながりへの理解を深めるとともに、素晴らしい実践に感銘を受け、学修意欲を高める機会としています。



3 最先端の在宅医療機器を用いた医療機器管理演習

医療的ケアを必要としながら自宅で療養する患者さんの急増に対応し、在宅療養者を支える医療機器も日進月歩の勢いで進歩しています。このため、在宅医療機器メーカーから最先端の医療機器の提供を受け、医療機器の使用・管理方法を学んだり、また在宅療養者の自宅を模した在宅演習室において、学生自身が在宅療養者の立場で医療機器を使用して、療養者や介護を行う家族の身体的、心理的、社会的状況について考える演習を行っています。これらの体験を通じて、学生は在宅療養者とその家族に必要な支援について理解を深めていきます。



4 地域連携を基盤とする地域看護診断演習

千代田区並びに区内の関係機関との地域連携のもと、千代田区住民の健康課題と支援策を検討する地域看護診断演習を行っています。演習では、学生自身で対象地区を歩き、暮らしやすさや健康に関わる町の状況を確認したり、社会福祉協議会、地域包括支援センター、児童館の職員、並びに住民の方々にインタビューを行ったりします。学修成果については、千代田区の関係者もお招きした報告会でプレゼンテーションを行います。

これらの学修を通じて、学生は、現代の保健医療福祉制度の中で必須となる地域看護の最新の知識と技術を習得していくこととともに、健康な人々に対する看護の役割について理解を深め、住民・多職種多機関との連携に必要な態度を身につけていくことができます。



5 学校・産業保健活動の実践現場体験

学校や産業の場で働く看護職への興味関心が高い学生を対象とした選択科目の中で、国立女子中学高等学校と、千代田区や中央区の企業での学外演習を行っています。この学校・産業保健活動の実践現場での学修は、養護教諭や産業看護職の活動と学校保健システムや企業の健康経営について、実践的に理解を深める目的で行われます。さらにこの体験は、病院に入院している患者さんの入院前後の生活の理解につながり、病棟での退院支援にも生かされていきます。加えて学生にとっては、病棟経験を経て学校・産業保健の場で活躍する看護職の先輩方の姿に自身の将来を重ね、キャリア形成について考える貴重な経験ともなっているようです。



III 学生生活・キャリア支援・国家試験対策

1 新入生歓迎交流会

看護学部は毎年4月のオリエンテーション週間に、2年生全員がBig Sisterとして新入生を迎える『新入生歓迎交流会』を開催しています。ここ数年は1年生も全員出席しており、履修のしかた、学生生活のこと、サークルやアルバイトのことなどを2年生から直接話を聞くことで、「これからがんばろう!」という気持ちを持てる機会になっているようです。



2 3年生対象キャリア支援（前期）

2年から3年に進級する3月末のオリエンテーション期間に、看護職としてのキャリアアップを考えることを目的に開催しています。

本学の教員が講師となり、保健師・助産師・養護教諭の仕事や資格取得の方法、認定看護師・専門看護師・大学院進学についての講演をしました。また、助産師、養護教諭については、看護学部卒業生の取り組みの状況なども紹介しています。

3 総合技術演習（OSCE）Ⅰ修了式の開催

3年生では、3年後期から始まる領域別臨地実習に臨むために、「総合技術演習Ⅰ」において客観的臨床能力試験（OSCE）に合格しなければなりません。2018年度は、3年生84名が試験に合格し、学部長より、合格証書と徽章が手渡されました。また、担任長、模擬患者役としてご協力頂いた本学事務職員の方々からは、激励の言葉を頂き、最後に、代表学生が領域別臨地実習に臨む決意を宣誓しました。



104

4 3年生対象キャリア支援（後期）

本学卒業生を中心とした先輩看護師4名を招聘して、「先輩看護師から学ぶ就職活動の進め方」というテーマでキャリア支援プログラムを開催しています。本プログラムは2部構成とし、第1部では、4名から就職活動の進め方や国家試験対策について体験談を話してもらい、第2部では、会場を移して、先輩看護師と3年生が交流できる会を設けました。そこでは、国家試験対策の取り組み方法、就職活動の要点、現在の働き方など、大学OGだからこそ、先輩方に多くの質問を率直にすることができ、終始和やかな会となりました。



5 さくら通信（「とびだせ！ Kyoritsuナース -学生委員会さくら通信-」）の発行

東京都千代田区という「地の利」を生かし、学外で開催される医療・看護系の催しを学生に案内し、視野を広げてもらおうという趣旨で2015年度からスタートした看護学部学生委員会が刊行する通信です。2017年度からは、講演会・セミナー・イベント等の案内のみでなく、学生委員会において開催した行事の紹介、学生への連絡事項も記事もまとめ、年4回程度定期刊行となっています。

6 ポスター掲示による看護研究発表会

3年生では、看護研究の種類や方法、文献検索などを学びます。4年生では、約1年かけて自分の興味・関心のあるテーマについて、色々な研究方法で研究を進め、看護研究論文としてまとめ上げ、最後に、ポスター掲示による「看護研究発表会」を行いました。

学生たちは、看護研究のプロセスを学び、やや緊張しながらも堂々と立派に発表していました。就職後、臨床現場でも看護の質向上のために、積極的に研究に取り組んでくれることでしょう。



7 国家試験対策

1年生から模擬試験などを実施し、その結果を基にして、クラス担任と連携してきめ細かい指導を実施している。学生自身がWebの国家試験問題に取り組むことができるようにさまざまなツールを活用して学習できるように支援をしています。

また、教員は学生個人のレベルに応じた学習指導や生活面を含めたきめ細かい指導をしています。

8 すずらん祭りへの参加

2015年から、神田すずらん通り商店街において開催される「本の街 神田すずらんまつり」の共立女子大学ブースに、『カラダの中の酸素はどれくらい？ 測ってみよう酸素飽和度』と題したコーナーを開設しています。2018年は、看護学部3年生のボランティア9名が参加しました。最初は緊張していた学生も徐々にリラックスし、ブースを訪れた観光客の方々の測定を行い、測定値の見方を説明していました。このように地域商店街の活動にも参加しています。



IV 教育推進のための取り組み

1 実習運営合同会議の開催

本学は、附属病院を持っていません。看護学実習を円滑に進めるには、実習を受け入れてくださる医療機関をはじめとする多くの施設との密な情報交換が欠かせません。そこで、実習施設と学部が連携し、臨地実習における教育効果や問題について共有・協議することにより、教育体制の充実と実習教育の向上を図ることを目的に、年に1度、「実習運営合同会議」を開催しています。

平成29年度2月に開催し、日下学部長による「臨地実習の現状と課題について」のミニ講義の後、各領域に分かれて実習の成果、運用上の課題、今後の改善点などについて意見交換を行いました。

2 共立看護学雑誌の発行と看護学研究会の開催

教員の教育実践や研究活動への示唆を与え合うことを目的として、雑誌「共立女子大学看護学雑誌」を年に1回、毎年3月に発行しています。



生活科学科 *Department of The Science of Living*

I 正課の教育

1 卒業研究・卒業制作発表会

短大では珍しい「卒業研究・卒業制作」が設けられています。2年間の集大成として、教員に近い位置で、より深い学習を行うことができます。テーマを決め、研究・調査あるいは制作を行い、その成果を発表会でプレゼンテーションすることは貴重な経験であり、大きな思い出となります。



2 実践教育

生活科学科では実習、実験、演習科目が数多く設けられています。講義科目で習った知識を実験や実習を通して実際に体験したり、コンピュータを操作して体得したり、その成果をレポートや作品に仕上げる実践教育を重視しています。これらの科目では、教員の他に助手がついてサポートします。助手は、学生にとって身近で頼りになる存在です。



3 学外学習

神田神保町という地の利を生かして、学外での授業を積極的に行っています。食・健康コースでは日比谷松本楼で、食事のマナーやテーブルセッティング、料理の彩り・盛り付けなどのレクチャーを受けながら食事をいただくテーブルマナーの講習を行っています。生活デザインコースでは近くの国立近代美術館や三菱一号館美術館など、無料や割引で観覧できる近隣の多くの美術館や博物館の見学会を授業に組み入れています。



4 リテラシー教育

生活科学科では早くから情報教育に力を注ぎコンピューターリテラシーに加えて現在ではメディアリテラシーに関する多くの科目を設けています。また、教養教育科目の「表現技法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の一つを選択必修とし、プレゼンテーションしたり、文章を正しく書いて正確に考えを伝えたりするなどのコミュニケーション能力の向上に努めています。



5 短期大学共通講座

共通講座は生活科学科と文科がコラボしてできた講座です。「人間関係と心理」「心と体の健康」など13講座が設けられ、それぞれに生活科学科と文科の科目の中から関連する科目が割り当てられています。学生は自分の関心がある講座にエントリーし、所属するコース、科を超えて幅広い学習をすることができ、修了証が授与されます。



1 チャレンジ・ゼミナール

「チャレンジ・ゼミナール」は、将来に向けてのキャリア支援を行う科目です。各学生は就職、編入学などの目標に向けてチャレンジします。具体的には、担当する教員と打ち合わせながら、講習を受けたり、関連するイベントに参加したりします。

117

就活・編入学		チャレンジ	ゼミナール	6
就活・編入学		チャレンジ	ゼミナール	4
学年	1	2	3	4
名前				
性別				
出身校				
希望する学部				
希望する専攻				
希望する就職先				
希望する進学先				
希望する理由				

2 キャリアを考える

「キャリアを考える」は、学生の関心が高い業界で活躍する社会人を招いてオムニバスで行う1年次必修科目です。実際に仕事をしている人の経験談を聞くことは、貴重な経験であり、就職や編入などこれからの進路を考える上で非常に役立つ授業です。

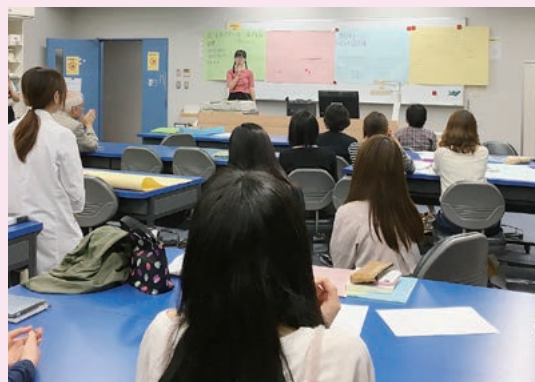
118



3 キャリアアクティブワーク

「キャリアアクティブワーク」は、2017年度から新設した2年次の科目です。生活科学科と文科が合同で実施し、学生自身が運営スタッフとして就活・編入の支援プログラムに参加しながら、社会人として必要な企画力やコミュニケーション力、実行力などを体験的に養い、実践に役立てていきます。準備期間として、1年次を中心として「キャリアサポートワークショップ」(通称キャリサポ)をスタートし、「キャリサポスタッフ」として活動しています。

119



4 編入体験報告会

大学へ編入したOGや編入後就職したOGを招いて、編入体験を話してもらう機会を毎年設けています。編入前に心掛けておくこと、編入後に気を付けることなど、体験者だからこそ知っている、とっておきのノウハウが得られます。

120



5 外部講師による授業の充実

正課の授業においても積極的に外部講師の指導を取り入れています。現場で活躍されているエキスパートによる特別講義は学生の実践的な学びとなっています。

121



1 社会人としてのマナー講座

卒業後の進路選択や就職活動の極意、社会人としてのマナー、さらには、生涯を通じたライフプランまで、経験豊かな人生の先輩女性をお招きしてお話をうかがい、一部で実践的な指導をしていただきます。学生にとっては、自己の可能性を社会で花咲かせることのできる多くのヒントを発見することができ、将来にプラスとなります。



2 自分育成力講座

キャリア教育プログラムの自分育成力講座では、女性の人生を展望したライフプランの重要性、雇用される働き方にとどまらず、フリーや自営・起業・ボランティア等、多様なキャリアプランのあり方を考えます。さらに、リーダーになるための能力について学び、ワークライフバランスを実現させる生き方・働き方について学ぶことができます。



3 インターンシップ研修

インターンシップ研修は、企業や団体で実務研修を行い、授業での学習内容を実践的により深めるものです。生活科学科ではインターンシップ研修への参加を積極的に後押ししています。研修先の企業の方、同時に研修に参加した他校の学生などから多くのことを吸収することができます。研修後に報告会も行います。インテリアのインターンシップ研修報告会では、司会を生活科学科1年生が行うなど、貴重な機会となっています。



4 就活トークイベント 在学生編

毎年10月に実施するこのイベントでは、1年生向けに、就職の内定した2年生に就職活動の体験を話してもらいます。プレゼンテーション後の懇談会では交流も深まり、就活へのモチベーションを高めることができます。2016年度からは、生活科学科と文科の合同イベントとしてバージョンアップしています。



5 就活トークイベント OG編

公務員・金融系に焦点をあて、活躍する卒業生をパネリストに招いて行うイベントで、開始して3年目を迎えます。就活から仕事内容まで率直な疑問や不安解消に繋がる経験談を聞くことができます。また、パネルディスカッションの前に行う外部講師の公務員試験概要解説も理解度アップに役立ちます。配布資料の準備から当日の総合司会行までを1年生を中心としたキャリアサポスタフが行いました。



6 OGトークイベント 女性の働き方を考える

2018年度スタートの新企画であり、「女性の働き方を考える」をテーマに、OGとの交流を通して卒業後の多様な女性の生き方を考えるものです。ホームカミングデイに、在学生67名の参加のもと5名の卒業生をパネリストに迎えて、本館5階のラウンジで実施しました。パネルディスカッションに先立ち実施した外部講師による医療事務の解説は、将来を見据えて取得する資格への手掛かりになります。

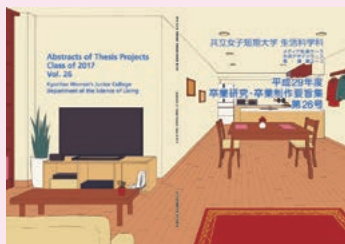


127

IV 優秀学生の表彰

1 卒研要旨集表紙・ポスターの原画デザイン

卒研要旨集表紙の原画デザインを在学生からコンペ形式で募集しています。最優秀賞の作品はカラー版卒研要旨集の表紙とポスター用の原画として採用されます。日頃のデザインの腕前を発揮する良いチャンスとなっています。発表会終了後の交流会で、多くの学生参加のもと受賞者の表彰を行っています。



2 学科紹介ブックレット表紙デザイン

学科紹介ブックレット表紙の原画デザインを在学生からコンペ形式で募集しています。2019年度のブックレットでは、日常生活のさまざまなモノに囲まれた女子学生をモチーフにして生活科学学科の学習内容をイメージしたビジュアルの作品が採用されました。

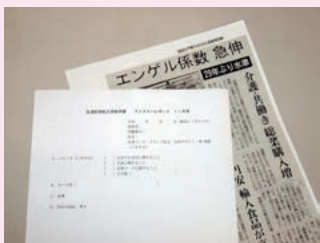


129

V 高大の繋がりを意識した教育

1 入学前教育：マンスリーレポート

推薦入試などで早めに生活科学科への入学が決定した人を対象に、月に1回のマンスリーレポートという課題を出しています。新聞やネットのニュースを1点選び、それについての自分の考えを述べるというレポートで、世の中の動向に関心が持てるように、そしてより良く短大での学習がスタートできるための準備となっています。



130

2 入学前教育：コース別の課題学習

推薦入試による入学予定者全員を対象にした、本学科独自の入学前教育として「生活科学科事前学習課題」があります。3コースごとにオリジナルの課題が用意され、入学後の学習を想定した実践的な内容になっています。例えば、メディア社会コースでは広告ポスター制作、生活デザインコースでは展覧会やイベントのレポート、食・健康コースでは化学基礎のワークなどが行われています。

131

I 正課でのキャリア支援

1 キャリアデザイン演習・キャリアアクティブワーク

文科では正課の中でも、学生自身の将来設計を支援する教育を行っています。1年後期に就職や編入に必要な知識、情報、スキルを学ぶ「キャリアデザイン演習」(必修)と、2年前期に就活そのものを学びの機会としてとらえる「キャリアアクティブワーク」(選択)です。将来設計についての講義、外部講師による具体的な就活指導、SPI対策、コミュニケーションや発信力を高めるためのグループワーキング等を行っています。



132

2 就職活動への積極的指導

短大生の就職活動は、大学生のそれと異なる面も多いので、文科の学生に特化した連続講座を、専門講師に依頼して行っています。1年前期「基礎ゼミナール」と後期「キャリアデザイン演習」の中で全5回、「働くとは何か」を考えることから始め、履歴書の書き方・面接時の笑顔の大切さ等の具体的な指導を受け、目に見える成果を上げています。



133

3 秘書実務を学ぶ

「秘書検定試験」対策に対応した授業ですが、それだけではなく、社会に出て働くために必要な心構えや知識なども学びます。



134

4 観光英語を学ぶ

「観光英語検定試験」対策を念頭に置いた授業で、ホテルや観光業界への就活に役立つ実践的な英語の習得を目指しています。



135

5 大学編入への積極的指導

公立女子大学を始め他大学への編入学を希望する学生も多いので、編入指導も欠かせません。常日頃の勉強と成績の善し悪しが合格を決めるので、1年生には特に勉強に励むよう指導します。2年生では特別編入に臨む学生は大学で何を学びたいかをしっかりつかませ、他大学編入希望者には一対一で入試問題に取り組ませるなど、きめ細かい指導を行います。

136

II 正課外でのキャリア支援

1 キャリサポ

キャリサポはキャリアサポートワークショップの略。学生がスタッフとなり、先生や助手と相談しつつ、就活・編入に有益なイベントをプロデュースします。進路を考える中で自分のことだけではなく、周りのみんなと協働する充実感があります。生活科学科の学生とも一緒に行動するので、友人の輪も広がります。今年度は「エントリーシートの書き方」「メイクアップで自分を生かそう」講座等を予定しています。



137

2 内定者トークイベント

すでに内定をもらった2年生と1年生との交流会です。就活の準備や、実際の就活のこと、就活の心得など様々なことを聞けます。すぐ上の先輩の体験談が聞けるので、これからの就活にとっても参考になります。



138

3 編入トークイベント

春・秋2回行います。春はこれから大学3年に編入を目指す2年生に対して、実際大学に編入を果たした3年生を招いて、面接対策や心構え、大学の様子などを話してもらいます。



秋は広く1年生対象に行います。就職か編入か悩んでいる人も、具体的な内容を聞けるので決断する際におおいに役立ちます。学年が違っても中々交流ができませんが、こういう機会はその点でも有益です。

139

4 OGネットワークを用いたキャリア支援

文科では卒業生のネットワークから、仕事先を出しても構わないと許可された方の勤め先一覧を作成して学生に公開しています（個人情報は出さない）。希望者には直接OGの方からお話を伺うことができます。就活では社員訪問をした方がよいとは聞きますが、初対面の方にお話を伺うのは結構大変です。文科のOGであればハードルもぐっと低く、意欲を持って望みたい学生に好評です。



140

Ⅲ リテラシー教育

1 リテラシーポイント

文科はリテラシー教育に力を入れています。リテラシーとは言語運用能力のことですが、特に、語学力そして文章力をつけることを重視しています。それらの能力アップを心がけてもらいたい、この制度を設けています。正課外活動で、リテラシーの力を身につけようとがんばった学生にはリテラシーポイントを与え、ポイントをたくさん集めた学生を表彰しているのです。また、編入学特別推薦に際しては、リテラシーポイントを一定の点数以上持っていることが推薦の条件になります。



141

2 千字エッセイコンテスト

毎年2回千字程度のエッセイを募集し、優れた作品を表彰し、またその作品を冊子にまとめ、様々な方に配布しています。応募した学生、入賞した学生にはリテラシーポイントが与えられます。その都度テーマを設定しますが、自由テーマでも応募できます。基本はエッセイですので、社会の出来事に対する思い、感動したことや落ち込んだことなど、学生の様々な声が伝わってきて、なかなか読ませます。

142

3 英語スピーチコンテスト

文科では、英語のスピーチコンテストを行い、優れたスピーチを行った学生を表彰しています。また、文科の英語スピーチコンテストの参加者と優秀者にはリテラシーポイントを与えられます。このスピーチに参加し発表するプロセスが英語の勉強にもなります。英語コース以外のコースからの参加者も増え、年々盛り上がってきています。



4 読書レポート

読書室にある本を対象に、800字程度の読書レポートを書いて提出した学生にはリテラシーポイントを与えています。中にはこの読書レポートを5本も6本も書く学生がいます。

144

IV 特徴的な施設と活動

1 文科読書室

文科には読書室があります。ここには、学生が読みたい本や教員が学生に読ませたい本などが揃えられ、文科の学生が気軽に借りられるようにしている小さな図書室といえます。学生を中心にした読書室委員が運営管理し、本の選定も学生が行います。図書館と違って、学生が主体となって選書をするので、読みたい本がたくさん揃っています。貸し出しの手続きも簡単なので、自分の本棚のようです。



2 読書室委員

文科読書室の管理運営や、読書室の活動を行う、教員、助手、学生からなる委員会です。中心は学生で、委員代表は学生がつとめます。主な活動は、文科読書室の管理・運営、購入図書を選定、様々な読書室活動への参加です。その他読書室活動はいろいろあり、例えば文学の史跡巡りなど自分たちで企画して行う楽しみもあります。



3 読書室活動

読書室委員は様々な活動を行っています。その一つに、学園祭の参加があります。参加すると決めた年は、読書室の本の展示や、古本市を開き、売り上げ金をユニセフに寄付するバザーなどを行います。古本市のかたわらで和カフェを開いた年もありました。



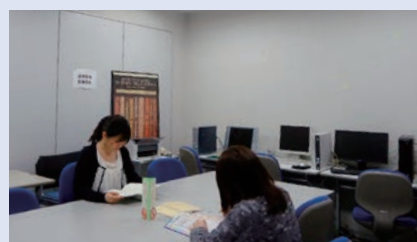
4 ブックパーティ

文科読書室委員が中心になって行う読書イベントです。過去には「私のオススメ本」「本に関わるテーマ」についてのフリートーキング「朗読による本の紹介」等を行いました。参加者は文科の学生だけではなく大学の学生にも呼びかけています。ケーキやお茶が出る茶話会風の知的でなごやかな集いです。



5 自習室

パソコン数台と6,7人が座れる小さな部屋ですが、学生がレポートを作成したり、パソコンで資料を検索をしたりする文科の学生のための学習室です。休み時間や授業の合間に、調べ物やレポートの作成によく利用されています。



149

1 学習カルテ

学生一人一人についての学習状況や学生生活についての情報を、面談などを通して把握し、学習カルテに記載しています。このカルテによってよりきめ細かな学習指導や学生生活の相談に乗ることができます。紙媒体のカルテですが、これを作成することが学生とのコミュニケーションの機会にもなっており、入学から卒業まで、担任教員が学生への親身な指導をするうえでこのカルテが大変役に立っています。



2 助手による面談

学習カルテの面談は、各コース付きの助手が5月連休後から全員を対象に行います。一人ずつ行うので大変な時間がかかりますが、これを通して学生は文科に慣れ、助手は学生を知り、教員から学生の問い合わせがあった時にすぐ応じられます。文科の特徴でもある教員と学生との親密さは、助手が中に入っていることなのです。



3 『文科GUIDANCE』

文科では、教員のオフィスアワーや時間割、学習や就職についてのQ&A、文科の学生が利用できる施設の紹介等を記した『文科ガイダンス』と名づけたリーフレットを作成し、毎年新学期に全学生に配布しています。特にオフィスアワー欄には、気軽に教員の研究室を訪れることができるように、教員によるメッセージが書かれています。



VI 学生と教員の交流

1 新入生歓迎タイム

オリエンテーション期間は長く、周りは初対面の人ばかり。連日慣れない時間割作りに疲れて新入生はストレスがたまります。そんな時お茶とお菓子で「新入生歓迎タイム」。お菓子をつまんでおしゃべりしている内に、文科の学生になったんだという実感を持つようです。



2 クリスマス会・新年会

各コースそれぞれ、学生と教員が一緒になって12月のクリスマス会や1月の新年会を開き、みんなでケーキを食べたりプレゼント交換をしたりします。このようなイベントを通して学生同士、あるいは教員と学生の交流を深めています。文科は学生と教員との距離がとても近いのが自慢ですが、このような催しが教員と学生との親密な関係を作っています。



全学共通

I 教育システム

1 小さな総合大学

本学には専門課程として自然科学系、社会科学系、人文科学系が揃っており、そこには医療系、芸術系、メディア系、教育系、建築デザイン系なども含まれています。小さいながらも総合大学といえることができます。総合大学は大規模になりがちですが、大規模になると大学全体を見渡すことが困難になり、かえって部門ごとのまとまりが強くなる傾向があるようです。しかし本学程度の規模であれば全体が緊密な関係に保たれるので、見通しもよく、各専門課程の特質がいろいろなかたちで全体に浸み通って、総合大学としてのメリットが生かされることになります。



2 全学共通教育科目

本学ではいわゆる教養科目を一本化し、大学・短大の別なく、すべての学部・科の学生が机を並べて授業を受けるようにしています。これによって学生の交友関係と視野が広がり、本学の小さな総合大学としての特質がいっそう強化されています。

3 教養講座・総合表現ワークショップ

近年、社会からリーダーシップの力が求められており、2018年度より、企業と連携をした課題解決型の授業を、2017年度のトライアル講座を経て、正課科目として導入しました。

この授業の特徴は、クライアント企業から出された課題に対して、学部・学科・学年の垣根を越えて取り組むことで、仲間の輪が広がることと、社会で求められているスキルを身に付けることです。

まず前期には、クライアント企業が抱える課題の解決策を提案するプロジェクト型学習を通じて、受講生は、基礎的なビジネススキルと、プロジェクト内で求められるリーダーシップについて学びます。

後期には、前期の活動を踏まえ、自己理解を深めると同時に、他者からのフィードバックを受け止め自身の成長に活かし、リーダーシップ開発の基本サイクルを理解し実践します。またその上で、小規模なプロジェクト型学修を行い、問題解決に必要なとされる論理思考やリーダーシップについて学びます。



4 基礎ゼミ

すべての新入学生は半期の基礎ゼミが必修です。これは25～30人程度のクラスを専任教員が担当し、大学で勉強する方法や意義について共に考えようというものです。ここを出発点として、卒業時の卒業論文や卒業研究に至る筋道が、本学での教育の根幹となります。また基礎ゼミナールでは本学の歴史や本学が位置する神田地域について理解を深めることも企画されています。



5 ネイティブ教員による英語科目

毎年ほとんどすべての新入学生が履修する英語Iは、ネイティブの教員が担当することになっています。これは英語だけで行われる授業です。英語の得意・不得意は関係ありません。とにかく、しゃにむに英語だけで行われます。まずは耳に慣れることが大切です。



6 プレイスメントテスト

入学式の前後に、新入学生の共通教育科目の英語の授業のクラス分けのため「プレイスメントテスト」が行われます。能力別のクラス分けは、効果的な授業を行うために必要です。どのクラスに入るかよりも、1年間努力することの方がはるかに重要なことです。

プレイスメントテストと対をなすものとして学年末に実施されるのが「英語アチーブメントテスト」です。これによって、1年間の努力の成果を量ります。

7 FD研修会

教員による授業改善の試みをFD (Faculty Development) と呼びます。本学には教員から成るFD委員会があり、様々な試みを教授会に提案し、実行していますが、毎年3月に行われるFD研修会もその一つです。全教員に呼びかけて、学外から専門家を招いて示唆を与えてもらったり、またお互いの模擬授業を見て批評しあったり、ということをしています。これによって授業の方法や技術について考えようというのが主旨ですが、ふだんあまり交流のない他学部の教員同士や教員と職員がこの機会に親しくなって情報を交換する、という副産物もあります。こうした垣根を越えた交流も、教育・研究をするうえで重要なことだと考えています。



8 臨時講師

科目の特質を考慮して必要と認められた場合に、学外から主として実務的な分野で活躍しておられる方に来ていただいて、臨時講師として授業時間中にお話を伺っています。特に学外の施設・機関での実習に関わる科目では、その準備段階で極めて有益なものです。

9 助手制度

本学には多くの助手(約80人)がいて、研究室業務のかたわら、学生の生活指導にあたっています。助手の多くは本学の卒業生で、本学のことを熟知しています。学生にとっては、学生の立場で考えてくれる最も身近で最も頼りになる存在です。

10 ゼミナール研究旅行

主として卒業年次の多くのゼミナールで研究旅行を行っています。すでに進行中の卒業論文について指導を受け、また友達同士で悩みを打ち明けあって、そこから新たな希望と活力を得ています。学生生活のなかでひととき新鮮やかな思い出を残す行事です。



11 総合文化研究所

専任の所員および事務職員によって構成されている本学附設の研究所で、共同研究、個人研究、研究成果出版などに助成金を出していますが、講演会や展示会を随時行って、教育機関としても機能しています。学生はそれらの講演会に参加したり展示の前でひとときを過ごしたりして、多くのことを学んでいます。

12 女性学

学問や教育には「男性向け」とか「女性向け」とかいうことはありえません。本学は女子大学ですが、「女性向け」の教育をしているわけではありません。しかしながら、本学に置かれている科目のなかで、共通教育科目の「女性と社会」、あるいは専門科目の「ジェンダー論」「女性と文芸」「子どもとジェンダー」などに、本学ならではの深い意味を読み取らないわけにはいきません。

本学は明治19年(1886年)に職業による女性の自立を促すことを根本理念として創設されました。その設立趣意書は、当時の女性の社会的立場を述べたうえで、「その惨(いた)ましさいはん方なし」と断じています。この趣意書の全体を貫く語調の激しさに胸を衝かれないではられません。本学は設立の趣旨を守り、強い意志をもって教育にあたっています。



13 履修中止制度

個々の学生が履修して得た授業科目の成績を評点に換算し、科目の成績評点に単位数を掛けた値の合計点を登録科目の総単位数で割ったものをGPA (Grade Point Average=評点平均値) と呼びますが、このシステムを本学でも平成24年度入学生から適用しています。この制度を導入するにあたり、これをより効果的に、そしてより教育的に運用するために、アカデミックアドバイザー制度を設け、学生の修学上の指導を強化していますが、これに伴い、授業開始4週目経過後の一定期間内に「履修中止期間」を設けました。学生は履修を中止したい授業科目がある場合、アカデミックアドバイザーに履修相談をし、認められた場合に中止できます。この中止によりGPAが下がることを避けることができます。

14 教育充実特別予算(大短GP)

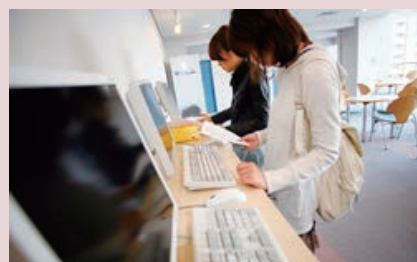
2018年度より導入した、教職員によるアクティブ・ラーニングの取り組みや産業界や地域社会と連携した取り組みなどの教育改革や全学的な取り組みに対する経費を支援する制度です。

活動の評価には明確な評価指標(ルーブリック)を取り入れ、成果を可視化しながら点検評価・改善を繰り返していきます。

より良い取り組みを全学的に波及させて教育改革を推進していくために、活動期間終了後にはその成果により、表彰「学長賞」を行います。

1 kyonet

校内の教育支援のためのネットワークシステムを、本学ではkyonet（教育ネットワークの略）と呼んでいます。これを通じて、教務課や学生課などが個々の学生に連絡を取ったり、教員が学生の出席やその他の情報を把握したり、授業の課題を出したり、学生がワードやエクセルで書いたレポートを先生に送ったりします。大学が組織として一人ひとりの学生を支援していける体制をkyonetにより構築しています。緊急事態が発生したときの連絡や所在確認にいかん威力を発揮するかは先の東日本大震災の際に証明されました。学校にとっても学生にとっても強い味方です。



2 グーグル・アップス

kyonetを補完するものとしてGoogle Apps for Educationを利用しています。これによって授業資料の展開や課題提出などを行っています。スマートフォンを含むマルチデバイス対応により、いつでもどこでも学習することが可能であり、且つ、自宅での学習を促進することで事前学習・事後学習時間の確保を実質化しています。また、新たな教育環境による新しい授業の創造も効果として期待できます。

3 共立シラバス

共立シラバスの特徴は、大学での学習は本来与えられるものではなく自らが行うものであるとの認識から、授業計画に毎回の授業ごとの内容や課題のほか、事前学習・事後学習の指示を載せ、学生が授業全体の見通しを持って準備ができるようにしていることです。また、このほかにその科目を修了するとなにが身に付くのかを学生の視点から記載し、授業の到達目標を明確にするとともに履修科目を選ぶ際の参考となるようにしています。



4 出席管理システム

各教室のドア近くの壁に設置してあるカードリーダーに学生証をかざすと出席が記録されるシステムです。これによって大人数の授業でも出席をとる労力と時間が省かれることになりました。学生も自分の出席が確かに記録されたかを気にしなくてもすむようになりました。また、出席が足りない学生に対しては早めのケアが可能となり、学生の保護者が学生の所在を確認しようとするときにも容易に対応できます。もちろん、ただ機械的に出欠をとるだけでなく、授業担当教員が諸般の事情を考慮して調整する余地を残してあります。



5 クリッカー

本学ではアクティブ・ラーニングを推進する一助として、教員の希望に応じて、学生がリモコンを使って授業に参加するための「クリッカー」という機材を導入しています。授業中に教員が選択式の問題を出し、学生がそれぞれの手元にあるクリッカーの番号を「クリック」して回答します。回答結果はその場ですぐに集計され、グラフなどのかたちで教室のスクリーンに映し出されます。教員はこのシステムによって学生の理解度を確認しながら授業を進めることができます。また、クリッカーの使用が、学生の主体的な授業への参加を促すきっかけとなっています。

6 学内限定 Google+ (グーグル・プラス)

Google Appsの機能の1つである学内限定SNS「Google+」を使って、学外への情報流出を確実に防ぎながら、新たな仲間を見つけたり、仲間同士で簡単に情報共有したりすることができます。コミュニティは誰でも自由に作成することができ、同じ趣味や目的を持った学生と教職員が活発に情報交換を行っています。このコミュニティを同好会・サークル・イベント等の交流補完ツールとして使うことで、更に充実した活動が期待できます。

7 インフォメーションPC

本館、3号館のロビーと、本館、2号館学生ラウンジ、図書館各フロアなどに、インフォメーションPCを設置しています。主にkyonet（学内webシステム）や学術情報検索用として利用されていますが、インターネットやMicrosoft Officeなど、自由利用することが可能です。インフォメーションPCからの印刷については、オンデマンド機能により、情報演習室のプリンタから出力することができるようになっています。



8 共立Web英語塾

希望した学生に本学名誉教授が作成したテキストを学内Webシステムで配信する英語の講座を開設しています。無料ですが、単位にはなりません。半期で6回、年に2講座です。各講座は「英語昔ばなし講座」「英語ジョーク講座」「英語クールジャパン講座」などのテーマを設けています。学生は毎回の小テストの解答を返信し、得点が基準に達すると講座修了証書が発行されます。

9 情報センター

情報センターでは、学内の情報システムの管理・運営をする一方で、個々の学生の情報機器利用に関する質問を受け、きめ細かい指導を行っています。

さらに、新入生を対象とする本学情報設備の利用方法についてのガイダンスの実施、ノートPC（無線LAN対応）とPC周辺機器の貸し出し、Macintoshの基本的な使い方の講習会の年間2回開催、情報演習室の印刷をどのプリンタからも出力することを可能とするオンデマンドプリントシステムの管理などを通じて、高度な情報社会に適應できる学生を育成するように努めています。

III 正課外教育

1 正課外活動評価制度

大学での学びは授業内だけに尽きるものではありません。サークルへの参加やボランティア活動、各種の学内講演会や委員会への参加など、正課外の活動を通じて学ぶことは大学生生活をいっそう有意義にするために重要なものです。本学では個々の学生のそれらの正課外活動を記録する制度を実施しています。学生の指導のために活用するとともに、就職活動の際に学生自身が自己PRに役立つようにしています。

2 自己開発単位認定

春・夏の海外研修を含めて、学生が授業外で行った勉強や活動などが、審査のうえ自己開発単位として認められます。

3 英会話ルーム

毎週木曜日の17時からの90分、ネイティブの教員のもとに学生が集い英会話を楽しみます。自由参加で、費用も申し込みも不要です。これから留学を考えている人、あるいは留学から帰った人のほか、英会話を就職に役立てたい人などが多く参加しています。先生がとても優しいので、リピーターも多いようです。



4 共立祭運営委員会研修

毎年10月に開催される共立祭に向けて、各公認団体からの選出委員および有志委員から成る共立祭運営委員会が立ち上げられます。それらの委員たちが夏季休暇中に研修を行います。委員同士の意思の疎通を図り、チームワークスキルの向上を目指します。



5 共立アカデミー

本学が設けている正課外講座です。教養文化、語学、資格検定、就職対策、健康、鑑賞会、実技等、学生の将来に役立つさまざまな講座を開講しています。授業の空き時間を利用して安価に学ぶことができるため、多くの学生が受講しています。毎年、講座を拡充し、現在では約220の講座が開講されています。生涯学習の場として、一般の方々にも受講していただいています。



6 入学前教育

主としてAO・推薦で本学への入学が決定した人たちを対象として入学前教育を行っています。これは、はやばやと入学が決まってしまった人たちの入学までのモチベーションを維持し、基礎学力の向上を図ることで高校生活を充実させ、より良い大学生活のスタートが切れるようにすることを目的としています。各学部によって方法は異なりますが、原則として、12月に大学から課題を出し、3月に提出されたものを添削して返却しています。

7 リーダーシップ研修

学内外から指導者を招き、公認学生団体（公認サークル）の幹部学生に対して、リーダーシップについて学ぶ研修会を行っています。グループワークを中心とした内容で、活発な討議を重要な要素としています。



8 チームワーク研修

公認学生団体（公認サークル）を対象に、チームワークスキルを学ぶ研修会を行っています。希望する団体が複数人で受講し、コミュニケーション、価値観、コンセンサス、意思決定などについてグループに分かれて討論し、さらにチームワークスキルを高めるための演習をします。



9 講演会

本学は学生が自由に聞くことのできる講演会を数多く開催しています。各学部学科が主催するもの、総合文化研究所が主催するもの、学生課、就職進路課が主催するものなどさまざまですが、いずれも学生はその所属や学年に関係なく聞くことができます。本学は木曜日 5 時限に授業を置かず、学生の正課外活動の便宜を図っていますが、講演会の多くもこの時間を利用して行われます。



IV 学生生活支援

1 奨学金

日本学生支援機構奨学金やその他の公共事業団体奨学金などの貸与奨学金の他に、本学独自のものとして、本学卒業生や旧教職員からの寄付金に基づく 8 つの給付奨学金があります。教員から成る学生委員会他の委員会が奨学生の選考にあたっています。

2 実務体験奨学金

勉学意欲があるにも関わらず就学が困難な学生に対して給付する実務体験を伴う奨学金です。本学事務局で 1 年間にわたり、授業に支障のない時間帯で計 180 時間の補助的な業務をします。年 4 回の研修会や学内行事への参加などもあり、学生の社会人基礎力を育成する「学内インターンシップ制度」とでもいうべきものです。



3 学内アルバイト

在学生家族懇談会やオープンキャンパスなどの学内行事に際して、本学学生がキャンパス案内や学生生活に関する質問への対応などの業務を担当します。これによって、学生の本学への帰属意識も高まるようです。

4 学生相談室

学生相談室では、学生のみなさんが豊かな学生生活を送れるよう支援しています。専門の心理カウンセラーがお話をうかがい、心の問題だけでなく、さまざまな悩み事など、一人で問題解決をできない時、より良い方法を探し出すお手伝いをいたします。相談内容によっては、専任教員相談員の先生や事務窓口への橋渡しもいたします。一人で悩まないで、相談室のドアをノックしてください。

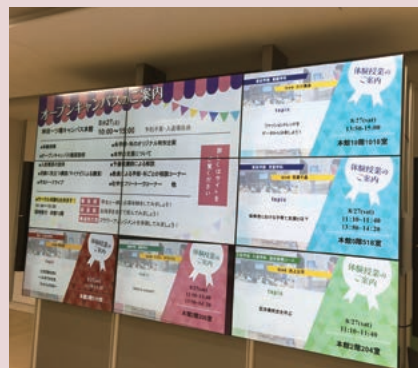


5 キャンパスハラスメントへの対応

キャンパスハラスメントとは、セクシャルハラスメントやアカデミックハラスメントなど、キャンパス内で起こりうるあらゆる形態の人権侵害を指します。本学では人権委員会を設置し、学生の相談窓口となる教員の窓口委員を設けて、被害の防止を図るとともに救済の道を拓く体制を整えています。これらについては、リーフレット「ストップ・ザ・ハラスメント」を発行して、学生・教職員に広く周知しています。

6 デジタルサイネージによる情報発信

学内の各建物にデジタルサイネージを設置し、常時、掲示板として学内イベントなどの告知をするほかに、共立祭や音楽祭などの催し物、海外研修、講演会などを記録した動画や静止画を映し出して、本学の生の姿を学内外の人々にお見せしています。また、これによって、緊急災害発生時にはテレビニュース等の情報を収集・発信できる体制を整えています。



7 学生生活実態調査

学生生活の充実をはかるため、定期的に学生生活に関する調査を実施しています。調査の結果は、学生部長が取りまとめる全学学生委員会で報告、検討され、充実した環境づくりを考案しています。

8 Kyoritsu Water

学生によるデザインでオリジナルウォーターを製作、販売しています。学生や教職員がイベントや会議、オープンキャンパスなどで利用することができます。



9 キャンパスガイド

共立での大学生活をよりよいものにするため本学では毎年全学生にキャンパスガイドを製作、配布しています。共立で大学生活を送るために必要な情報が盛り込まれており、カレンダーやメモとしても使用できます。



V 学生関連施設

1 学生寮

東京都杉並区に本学の学生寮「ナチュール杉並」があります。平成17年に完成した全243室の近代的なマンション仕様の建物で、留学生を含む学生たちが生活しています。管理人による24時間管理態勢をとっています。また、全室個室でプライバシーのある空間が保てます。寮生同士の交流も盛んで、毎年、懇親会が行われています。



2 研修センター

軽井沢と河口湖に研修センターがあり、学生がゼミナールやクラブ活動の合宿をしたり、教職員が福利厚生施設として利用しています。いずれも抜群の自然環境の中にあり、1年を通して利用することができます。これらとは別に東京都杉並区にも研修センターがあり、1日単位のクラブ活動や公開講座などに使用しています。



3 八王子キャンパス

本拠とする神田一ツ橋キャンパスのほかに八王子市にキャンパスがあります。体育館、陸上競技場、テニスコート、ゴルフ練習場、講堂、宿泊棟などを備え、正課外での学生の体育・文化活動のために使用しています。また、公開講座やスポーツ教室などを主催して一般市民の方々にも開放しています。



4 戸田艇庫

本学は荒川の戸田オリピックコース沿いに艇庫を持っている唯一の女子大学です。神田一ツ橋キャンパスから1時間足らずという好立地にあり、ボート部員・カヌー部員は学業と部活動を無理なく両立させています。平成25年に耐震補強を兼ねて艇庫の全面改装を行い、いっそう快適になりました。



5 トレーニングルーム

2号館地下体育室に隣接した場所にトレーニングルームがあり、有酸素運動および筋力向上のための各種トレーニングマシンと、体調などをセルフチェックするための体組成計や血圧計を設置しています。

授業で使用する他、学生は、説明会に出席し、安全面での注意事項や使用方法などを理解した上で、授業等で使用している場合を除き、開室時間帯は自由に利用することが可能です。運動習慣が減少しがちな学生生活の中で、運動不足の解消や体力の向上、気分転換などの為に、空き時間を有効に活用して体を動かすことができます。



VI 障がいのある学生への支援

1 ノートテイク講習会

聴覚障がいのある学生のために授業中の音声情報をノートに取る技術を学ぶ講習会を毎年実施しています。ノートテイクを必要とする学生の有無に係わらず実施し、いつでも対応ができるよう努めています。



2 点字サービス

自動点訳ソフト、点字文書作成ソフト、点字プリンター、立体コピー機、点字ディスプレイなどを一室に揃え、視覚障がいのある学生が授業その他の学生生活を円滑に送れるように配慮しています。

3 バリアフリー

本学は完全バリアフリーになっています。車椅子の学生が外から校舎に入り、授業を受け、クラブ活動を行うにあたって支障がないよう、構造や設備の面での配慮をしています。トイレについては、車椅子専用のものを各建物に設置しています。

4 支援チーム

支援を必要とする学生の入学が決定すると、教員と教務課、学生課、管財課、情報センター等の職員が支援チームを作り、準備を整え、また入学後は学生生活が円滑に行えるよう随時会合を開いて検討し、实际的な支援にあたっています。



Ⅶ 学生の活動

1 共立祭

毎年10月なかばの土曜・日曜に行われる本学の学園祭です。本館1階ロビーに設置される特設ステージでは途切れることなく公演が行われます。その他、講堂、グラウンド、多数の教室を使って、音楽サークルの演奏のほかに、狂言やミュージカルの上演、ファッションショー、チアリーダーや競技ダンスのデモンストレーションなど多彩な発表が行われます。

そのなかでも、20年近く続いている本学独自の企画として、ブライダルショーがあります。本学の卒業生で世界のブライダルファッションデザイナー桂由美さんの指導を頂きながら行うブライダルショーです。桂さんのデザインによるウェディングドレスを本学学生が着て、多くの友人たちのうっとりした視線の中を歩きます。

展示は、文化系サークルの発表のほかに、デザイン系の演習クラスの発表があり、見応えがあります。



2 共立祭表彰制度

共立祭では各サークルや有志団体が思い通りの企画を立て、歌ったり踊ったり展示したりと、日頃の練習の成果を思う存分発揮し、校内を賑わせています。大学では、学生のこの企画発表について、「共立祭企画評価制度」と題し、展示部門とパフォーマンス部門の2部門において、教員・職員・学生等の投票により、多くの人が素晴らしいと感じた企画の3位までを、学生委員会で表彰し、学生のやる気を応援しています。



3 新入生歓迎会

新入生オリエンテーション期間中に、学内公認団体の代表であるサークル連合会主催で新入生歓迎会を実施しています。

サークルの発表等の企画で、これからの学生生活への期待を盛り上げています。



4 学内レガッタ

新入生歓迎を兼ねて、毎年5月の連休中に、荒川の戸田オリンピックコースで、ボート大会が行われます。学生だけでなく教職員も参加でき、4人1組でレースに参加します。競技用ボートを漕ぐのは初めてという人がほとんどですが、レース前の練習ですぐに慣れ、ボート選手になった気分を楽しんでいます。ボート部員がコックスを務めるなどして大会運営にあたります。



5 共立音楽祭

11月半ばの1週間、昼休みと夕方に校舎1階ロビーを会場として、共立音楽祭が催されます。この時はロビーが華やかな音楽サロンとなります。音楽サークルに所属している学生はもちろん、それ以外の日頃楽器に親しんでいる学生、卒業生、教職員などが、演奏します。司会は放送研究部の学生が担当します。よく知っている人の意外な一面を発見する楽しみがあります。



6 ロビーでの単発的音楽演奏

室内楽団、マンドリンクラブ、吹奏楽部、フラ部など音楽系サークルは、日頃の練習の成果を、ランチタイムの本館ロビーにおいても発揮しています。これらが奏でる演奏や演舞により優雅なランチタイムが演出されています。

また、今後は学園創立130周年とともに竣工した、2号館ラウンジなども利用した学生の自主的発表も期待され、音により心優しくなる空間が演出されていくものと思われます。



7 伝統文化企画

学内サークルには箏曲部や陶芸サークルなど日本の伝統芸能を対象としたものがいくつかあり、それらのサークルに、時期を定めて、校舎ロビーでの発表の機会を提供しています。学校全体が雅やかな雰囲気で満たされます。

また、伝統文化企画の一環として、「合同華道展」も行います。学内サークルとして「池坊」「小原流」「古流」「草月流」の4つの華道部があり、それらのサークルに校舎1階ロビーで生花の「競演」をする機会を提供しています。



8 浴衣DAY

毎年七夕前後に、公認学生団体「きもの着付け倶楽部」主催の浴衣DAYが行われています。このイベントは、浴衣などの和装で生活を送るという日本の伝統文化を体験することを目的としています。きもの着付け倶楽部の学生が着付けた浴衣姿で、多くの学生が一日を過ごし、また、共立祭く桜姫>ファイナリストの浴衣姿でのお披露目もあり、華やかです。茶道部による茶菓の提供も行われています。



9 「本の街・神田すずらんまつり」への参加・協力

地元の神田すずらん通り商店街が主催して、毎年5月の最終土曜日に「本の街・神田すずらんまつり」が行われます。本学も様々な形で参加・協力しています。例えば看護学部学生による「健康チェック～測ってみよう酸素飽和度～」は、看護学部の教員の指導の下、老若男女いろいろな方の酸素飽和度を測り、数値の説明をします。また、三省堂書店前に作られた特設舞台で、吹奏楽部が日頃の練習の成果を存分に発揮して演奏しています。家政学部建築・デザイン学科の学生が制作した「ゆるキャラ“じんぼうチョウ”」も出演し、花を添えます。他に、運営ボランティアとして、近隣の大学生と一緒に本学学生もさまざまな場所で活躍しています。地域の方々と一緒に、地元神田を盛り上げています。



10 美術館・博物館キャンパスメンバーズ

本学は「国立美術館キャンパスメンバーズ」および「東京国立博物館キャンパスメンバーズ」に加入しています。本学の学生は、学生証を呈示することで、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館、国立新美術館の常設展を無料で、企画展を割引料金で、観覧できます。東京国立博物館では総合文化展の無料観覧などの特典があります。

11 共立カレー

公認学生団体「食で世界を笑顔にする会 くすくす」のメンバーがレシピを監修した「共立カレー」を、学内の売店限定で販売しています。ココナッツミルクトマトカレーのさわやかで深い味わいは、幅広い世代に好評です。



1 新入生保護者説明会

現代の大学教育は学生のご家族の理解・協力なしには十分な効果をあげることができません。そのため、入学式の後に、引き続き講堂で保護者説明会を実施しています。学長をはじめ教務課・学生課・就職進路課の担当者が、単位履修や学生生活などについて、説明します。

2 在学生家族懇談会

本学神田一ツ橋キャンパスをはじめ、東京以外の地域にも会場を設け、学生のご家族にお集まりいただいて、学生生活や就職支援のあり方について説明し、疑問や不安を解消していただいています。ご希望によっては個々の学生の就学状況をお知らせすることもしています。学生もさまざまなかたちでこれに参加しており、在学生の声が聞けると好評を得ています。



3 授業見学会

6月の1週間を定めて、授業見学会が行われます。これは教員がお互いの授業を見合っ、FD活動の一助とする、ということと同時に、学生のご父母や公的機関・企業の関係者に授業を公開することによって本学への理解を深めていただく、というものです。学生のご父母に見ていただくといっても、高校までのいわゆる授業参観とは意味合いが違いますから、お子さんの授業を見る必要はなく、それぞれ興味のある授業を見学し、学生時代に戻って楽しんでいただいています。



4 kyonet保護者アカウント

本学では個人情報保護の観点から保証人の方への成績送付は行っておりませんが、kyonet（学内webシステム）に設けられている「保護者アカウント」に保護者の方が（学生本人の承諾を得たうえで）お申込みになりますと、ご自宅のパソコンでお子さんの成績、時間割、出席状況などを見ていただくことができます。

5 後援会

在学生の保護者の方々に構成されている、本学の教育を支援するための組織です。各種の行事に際していろいろなかたちでご助力いただいておりますが、本学としても、この組織を通じて保護者の方々と緊密なつながりを保っています。

IX 図書館・博物館

1 KWU分類による配架

図書館の配架方法は、専門書を中心とする4階を「NDC分類」で、学生に利用を推奨する資料を中心とする3階を本学独自の分類方法による「KWU分類」で配架しています。「KWU分類」は本学のカリキュラムに即した9つに分類され、学習との関連性がわかりやすくなっています。



2 スマホアプリ「リブコモ！」

スマホアプリを利用することで、リブコモ内の混雑状況のリアルタイム把握や、特別なお知らせの受信、学修室の予約など、リブコモを便利に使うことができます。また、アプリ内のポイントを集めると学修に役立つ様々なグッズと交換できます。



3 ラーニング・commons

ラーニング・commonsとは、様々な方法で能動的に学べる学修空間です。

留学生との交流の場である「グローバルcommons」、ICT機器を利用した学修に最適な「デジタルcommons」、大きな机や模造紙といった発表資料作成が可能な「クリエイティブcommons」、議論の場である「グループ学修室」といった空間で様々な学修が展開されています。

また、学生の自学自習を支援する「ラーニングコンシェルジュ」を配備し、手厚い学修サポートを行っています。



4 学修支援

予測困難な成熟社会においては、生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力などを大学での学びの中で培うことが求められています。そのために、授業や学修方法を能動的学修（アクティブ・ラーニング）へ転換する必要があります。

学習支援プロジェクトは、ICTの利活用における支援を中心として、教材作成支援やkyonetの利用促進、授業やその他の動画コンテンツの作成・配信などを行っています。

また、アクティブ・ラーニングへの転換などの授業改善の試みが常に行えるように、教員の一次相談窓口としての機能も果たしています。専門の職員が常駐していて、多様なニーズに対応しています。

224

5 共立Stand Up！プロジェクト

ボランティア活動、留学生支援、イベント運営、地域活動など様々な学内プロジェクトの支援を行っています。サークル活動との違いは、①1年以内の有期活動であり、②成果発表会をもって活動終了とし、③活動の評価（メンバー、教職員サポーターとの振り返り、自己評価）を行う点にあります。

これらの活動を通し、前に踏み出す力やチームワークといった社会人として必要な力が身に付きます。



225

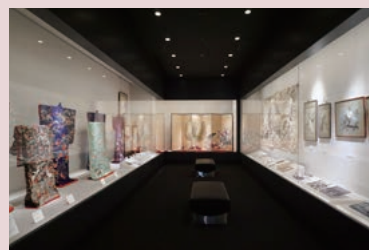
6 学生図書委員会

有志の学生たちが集まり、どのような本が共立の図書館にふさわしいか考えた選書活動や、図書館がもっと積極的にそして快適に利用されるためにはどうしたらよいかを考えた広報活動やイベントの企画・実施を行っています。



7 共立女子大学博物館

2号館の地下1階にある共立女子大学博物館は、小規模な展示スペースながら、本学の創立以来、長年にわたって蓄積されてきた、日本と西洋の服飾美術品を中心とする文化財を多数収蔵しています。これらのコレクションを順次一般公開するとともに、企画展・講演会等の開催、学芸員資格取得のための実習施設としての活動を通じて、研究成果の社会への還元や教育研究の支援を行っています。



X 就職支援

1 面談記録（スチューデントプロフィール）

kyonet（学内webシステム）の中の一つの機能で、個々の学生のさまざまな情報を学内の教職員で共有し、的確な支援を行います。成績や授業の出欠情報などの授業関係の情報だけでなく、所属サークル情報や就職活動情報も記載されており、多面的に一人一人の学生を見ることができます。特に就職活動情報は、個別面談の際、情報を確認しながら行うことで、初めて面接する担当者でもすぐ本題の支援を行うことができ、大きな効果を上げています。

2 進路ガイダンス・プログラム

大学3年次、短大1年次の前期に進路ガイダンスが始まり、就業意識を高めていきます。その後もガイダンスや各種プログラムが随時開催され、自己理解や職業理解を深めていきます。さらに、就職活動が本格化する前に、書類作成や筆記試験、面接などの選考対策の準備を進めていきます。



3 個別相談

本学就職進路課には資格を持ったキャリアカウンセラーが4名在籍しています。また、専任職員が6名、求人票の入力・掲示・kyonetでの発信などの事務を行っているスタッフも4名います。総計15名のスタッフが就職・進路支援を一丸となって行っています。これは他大学と比較し、学生数に対して非常に多くのスタッフでの対応となっています。個別相談では、学生の意向を大事にしながら、ひとり一人の進捗状況に合わせた支援をしています。



230

4 卒業生との懇談会

本学は長い伝統を持ち、多くの有為な卒業生を世に送り出してきました。企業からも本学出身者は高い評価を受けています。そのような卒業生に、働くということ、企業のこと、自身の就職活動、将来の希望などを、在学生に話していただいています。様々な業種、職種の卒業生の話を聞くことで就職活動の役に立てるとともに、キャリア設計の一助としています。



XI 環境問題

1 環境学習

近年、環境問題が大きくクローズアップされ、学校の社会的責任としても取り組むテーマとなっています。本学には環境に関わる授業が多くあり、また、正課外でもエコツアーや環境関連の講座を実施しています。これらの取り組みは、ホームページで紹介しています。

3 屋上庭園

皇居の緑豊かな自然と都心のオフィス街を眼下に望むことができる屋上庭園は、学生が授業の合間や昼休みなどにリフレッシュできる憩いの場となっているとともに、屋上緑化によるヒートアイランド現象の緩和にも寄与しています。



2 エコ照明

本館西口通用門付近に小さな太陽光発電のパネルがあり、その傍の照明はそれによって電力を供給されています。とても小さな規模ですが、ここを出発点として、エコへの取り組みを大きく発展させてゆきたいと願っています。



4 雨水利用

本学に隣接している区道は大雨や台風による冠水が5～10年に1回くらいの割合で発生しています。そのため、本館屋上の雨水をそのまま公共下水道に流さずに、まず地下に設けられた雨水貯水槽に流し込み、地域の雨水流出抑制に貢献しています。それと同時に、貯水槽に貯まった雨水を、塩素で消毒した後にトイレの洗浄や冷温水発生器の冷却に使用するなどして、エコにも貢献しています。



5 省エネルギー

教職員から成る省エネルギー推進委員会が、国や都によって定められた温室効果ガス排出基準値を上回らないよう、省エネルギーのための方策を検討し、実行しています。室温や照明の管理をする一方、環境保全の必要性を全学生に訴えています。

XII 防災

1 防災訓練

火災や地震等の災害に備えて毎年訓練を行っています。

年に一度希望者を募り、千代田区役所や神田消防署の指導のもと、起震車や煙ハウスの体験、消火器、消火ホースの使い方、通報訓練、災害用伝言ダイヤルの利用方法等を通じて、防災への経験と心構えを身につけます。また、学内の防災設備や備蓄倉庫等の見学も行っています。



2 緊急避難訓練

授業時間中に災害が起きたことを想定し、学内に緊急放送をかけ、学生を指定の避難場所へ誘導する訓練を実施しています。実際に授業時間の一部を使って訓練を行うため、防災訓練とは別に毎年実施しています。当日は神田消防署からのご指導をいただいています。



3 防災設備

消防法その他で定められている防災設備を完備していることは言うまでもありませんが、その他に、教室・研究室を含む全室の非常用照明装置など、規定外のものも備えて万全を期しています。

4 災害用備蓄品

「学生3日分の確保として、乾パン、ビスケット、袋詰ご飯など、食品約4万食、水4万本、毛布およびレスキューシート約5千枚、生理用品約4千個、簡易トイレ約3千個などを常備し、キャンパス内数か所に分散し保管しています。



5 千代田区との防災協定締結

千代田区との間で大規模災害時における協力体制に関する協定を締結しています。区民等の安全確保のために神田一ツ橋キャンパス2号館の一部を一時的に条件付きで避難施設として提供し、収容した被災者への3日分の備蓄物資を提供する内容となっています。

6 安否確認テスト

大災害発生を想定して学生ならびに教職員の安否確認テストを行っています。3月と9月の年2回、kyonet（本学の教育ネットワークシステム）を通じて実施しています。できる限りの情報を収集することで、迅速かつ効率的な対応策を取れるようにすることが目標です。また、安否確認の取れない学生・教職員を特定することにより、kyonet以外の方法で連絡を取る道も開けます。いざ災害が起こった際に落ち着いて対応できるように、毎回、緊張感をもって実施しています。

7 災害時対応マニュアル

大学では、災害発生時の緊急対応体制の準備をはじめ、さまざまな防災対策を行っています。しかし、被害を最小限に抑えるためには、大学の対応は勿論ですが、学生一人ひとりの日頃からの心構えが必要です。

いざという時に慌てず落ち着いて必要な行動をとることにより災害から身を守ることができるよう普段からの心がけも含めて学生手帳（キャンパスガイド）に「災害時対応マニュアル」のページを設け、常に携帯できるようにしています。



XII 国際交流

1 国際交流委員会

海外経験の豊富な専任教員によって構成される委員会で、海外との研究交流や提携校との連絡・交渉、学生の長期留学や海外研修の企画・選考などについて協議します。

2 国際交流室

国際交流活動全般を支援するために設けられています。常駐の2人の職員が学生の相談相手となるなど、留学に関するサポートを行っています。海外留学を考えている学生はここに足繁く通うことになります。また、海外からの留学生にとっては、母国とつながっているように感じられる部屋です。

3 留学制度

本学学生が海外の大学に留学する制度には、交換留学、派遣留学、一般留学があります。

交換留学は協定校とのあいだで留学生を交換するものです。派遣留学は、提携校へ学生を派遣することに限定したプログラムです。一般留学は学生が自ら留学先を選び、本学の許可を得て留学するものです。いずれも留学先の大学において修得した単位のうち、申請して認められたものは卒業要件に必要な単位として認定されます。



4 交換留学

フランスのイナルコ大学（東洋言語文化学院）、スイスのジュネーブ大学、および中国人民大学と協定を結び、毎年数名ずつを交換しています。双方の学費が免除となり、宿舎については受け入れ側が用意することになっています。本学への留学生は学生寮「ナチュール杉並」で一般の寮生と一緒に学生生活をエンジョイしています。

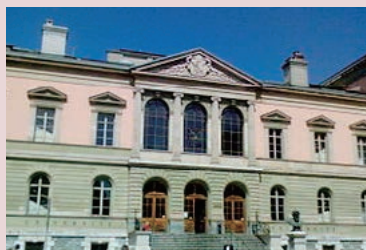
5 イナルコ大学 (交換留学・フランス)

17世紀に創立されたイナルコ大学は、語学教育において長年の実績を持つ大学で本学とは毎年2名ずつの交換留学プログラムを実施しています。日本語学科を有し日本語、日本文化研究の分野においてはヨーロッパでも最大級の教育・研究機関で、受入れの留学生は流暢な日本語を話します。本学からの留学生はフランス語修得を中心とした研修を行います。



6 ジュネーブ大学 (交換留学・スイス)

ジュネーブは国連や赤十字などの機関が置かれている国際都市で、フランス語圏ながら英語にも触れる機会が多い環境にあります。本学から派遣の交換留学生のうち1名に、ジュネーブ大学からおおよそ9ヶ月分の生活費に該当する奨学金(約100万円相当)が支給されます。



7 中国人民大学 (交換留学・中国)

北京市内にある、人文・社会学系では中国トップクラスの大学で、広大なキャンパスには、一つの町のように生活に必要な店や施設があり、安全な環境が整っています。本学から派遣の交換留学生には中国人民大学から奨学金が支給され、宿舎も無償で提供されます。



8 派遣留学 (全学対象)

本学は海外に留学生を派遣するためにアメリカ、カナダ、イギリス等の大学と提携しています。これらの大学に半年ないし1年留学することができます。

9 アメリカ・セントラルワシントン大学 (派遣留学・アメリカ)

ワシントン州郊外の州立大学で、大学のあるエレンズバーグは風光明媚で、比較的治安も良いため暮らしやすい土地柄です。本学学生の大半は大学寮に滞在してUESLプログラムで語学を学んでいます。UESLプログラムでは能力別に5段階にクラス分けされます。レベル5の学生は条件付きで学部授業の聴講が可能となり、文化人類学や地理学、心理学などを学んで帰国しています。



10 ウィニペグ大学 (派遣留学・カナダ)

自然豊かなマニトバ州の公立大学で、本学学生は原則、全期間ホームステイにより滞在しています。3学期制のため、5月上旬～12月中旬まで、または5月上旬～3月中旬までのどちらかの期間を選択し留学しています。Academic English Programの上級(レベル5)に所属する学生は学部の授業を履修することができます。



11 リーズ大学 (派遣留学・イギリス)

ヨークシャー州リーズにある国立大学で、イギリス有数の歴史と規模を誇ります。リーズは工業と金融で知られ、ロンドンにも比較的交流が良く活気ある都市です。本学学生は英語力を伸ばすGeneral Englishコース、あるいは語学留学後、学部の授業に参加するStudy Abroad Programmeを受講します。いずれの場合も、応募に際して他の提携校に比べ高い語学レベルが必要となります。



12 オックスフォード・ブルックス大学 (派遣留学・イギリス)

イギリスで最も有名な学園都市オックスフォードにある私立大学で、新設大学として長年トップクラスの評価を得ています。治安・交通の便ともに良く、世界中の学生が集まって多国籍文化を形成しています。派遣留学では、英語コースの場合、IELTSスコア4.5以上、またはそれに準ずるプレースメントテストでの合格が受講の条件となります。



13 バーミンガムCIC（派遣留学・イギリス）

CICはCollege for International Citizenship（国際市民コレッジ）の略で、バーミンガム市にあるアストン大学やバーミンガム大学などいくつかの大学プログラムが集まってできたユニークなプログラムです。前半に語学を集中して学び、後半にはコアプログラムとして市民学や政治学などを学ぶ独自のスタイルでの授業が用意され、クラスごとに研究活動やプレゼンテーションなどを行っています。



14 私費外国人留学生授業料減免制度

本学に在籍し、経済的理由で修学が困難な私費外国人留学生に対して、選考のうえ、授業料減免措置をとっています。

15 国際交流奨学金

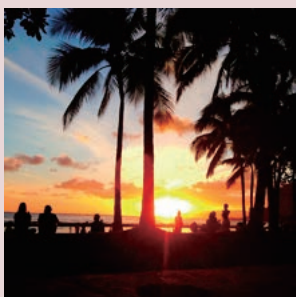
本学には海外への留学制度推進のため、交換留学、派遣留学、一般留学および海外研修のための国際交流奨学金制度があります。この奨学金は返還の必要はありません。交換留学および規程留学奨学金は、1年間留学の場合、年間授業料の半額分、半年留学の場合は、年間授業料の4分の1を選考の上、給付します。海外研修奨学金は1名あたり5万円を本学学業成績により給付します。

16 夏季海外研修（全学対象）

本学の夏季研修は、英語圏（アメリカ・ハワイカピオラニカレッジ）、フランス語圏（フランス・アンジェ西部カトリック大学）で実施しています。それぞれの語学を中心として、その国の文化を幅広く学ぶと同時に、現地の大学生や市民との交流を通じて国際親善にも努めています。

17 ハワイ大学カピオラニカレッジ（夏季海外研修・アメリカ）

アメリカ研修開始から約15年間、アイビーリーグのペンシルベニア大学で実施し、以降はハワイのカピオラニカレッジにおいて、ここ数年30名程度の学生を派遣しています。



18 アンジェ西部カトリック大学（夏季海外研修・フランス）

アンジェはフランス西部のメヌ川河畔に位置する可愛らしい雰囲気の街です。研修中はスタッフによりきめ細やかにサポートされ、ホスピタリティあふれる大学院生が生活をともにすることで参加学生との交流を行っています。語学講習終了後のパリへの小旅行も大変魅力的です。



19 春季海外研修（全学対象）

学生の希望者を募って、春季休暇中に語学を中心とした研修を行っています。春季休暇は気候もよく、授業からの制約もないので、海外研修にはうってつけです。今後、研修先を増やすことを検討しています。

20 広東外語外資大学（春季海外研修・中国）

中国広東省の重点大学として、国際経済、国際貿易及び外国語のエリートを養成するための高等学府である広東外語外資大学において、中国語研修を実施しています。中国語運用能力向上と中国の歴史・文化に対する理解を深めることを目的としたプログラムで、語学力のブラッシュアップを図るとともに、語学以外に現地日本語学科学生との交流や中国国情講座、広州市内見学や日系企業視察など中国文化に直接触れることが出来ます



21 クイーンズランド大学（春季海外研修・オーストラリア）

自然豊かなブリスベン郊外にあるオーストラリア屈指の名門大学で、春季休暇を利用して行う3週間のプログラムです。本学の提携校でもあり、毎年40名弱の学生が参加しています。滞在は、全期間ホームステイで授業以外にもファミリーと英語でのコミュニケーションをとることができ、大変人気のプログラムです。



22 ポーランド ヤギェウォ大学との交流

2018年度より、ポーランドとの国際交流がいよいよ開始されます。教員間の交流、学生同士の交流など、今後の幅広い交流が期待されます。



23 海外インターンシッププログラム (上級者用プログラム)

オーストラリア・クイーンズランド大学において、前半は集中的に語学力の向上を図り、語学力が規定のレベルに達したところで、インターンシップに参加します。インターンシップの派遣先は観光、行政、教育など多種多様であり、授業内で職場での実用的なスキルについて事前に学ぶことができ、就職活動に向けても貴重な体験といえます。応募には、通常より高いレベルの基準が設けられており、上級者プログラムでの派遣者には規程留学奨学金が給付されます。



24 ペンシルベニア大学協定校派遣留学 (上級者用プログラム)

アメリカ・アイビーリーグの名門ペンシルベニア大学への留学プログラムで、応募には通常より高いレベルの基準が設けられています。この留学プログラムの派遣者には、本学とペンシルベニア大学の協定に基づき、現地授業料が一部減額されるほか、本学規程留学奨学金が給付されます。



25 ブリティッシュヒルズプログラム【宿泊型】 (国内留学プログラム)

広大なブリティッシュヒルズの教育施設において、英語+体験型の生きた英語を学びます。レッスンの合間にはヒルズ内で講師とともにアクティビティを体験するなどたくさんの工夫が施されており、アフターヌーンティや英国式テーブルマナーも体験することができます。



26 国内英国留学@Kyoritsu【通学型】 (国内留学プログラム)

費用面、安全面を配慮し参加しやすい環境の中で英語漬けの5日間を過ごします。短期集中型プログラムで実社会においても有益なスキルを磨きます。最終日の修了式では参加者全員がプレゼンテーションを行い5日間の成果を発表します。

28 国際交流チューター制度

学生を募り、海外からの留学生の手助けをしています。チューターは、前述の日本語プログラムを更にサポートするための日本語サポートチューターと、生活全般を支援するキャンパスサポートチューターの2つに分かれます。日本語サポートでは、読み書きを中心に漢字やことわざを習得するための練習問題などを行い、キャンパスサポートでは、定期券購入に始まり、サークルへの加入、履修相談、学外での文化活動など、留学生が快適な留学生活を送ることができるように学業、生活の両面から支えています。これは本学の学生にとっても異文化交流の機会となり、視野を広げるうえで役立っています。



27 日本語教育プログラム

日本語力のまだ不十分な交換留学生や特別留学生などの短期留学生に対し、日本語教育の支援プログラムを提供しています。日本語講師による文法、文章表現、新聞記事の読解などの授業を行い、最終的には日本語でプレゼンテーションができるようになるよう、きめ細かな支援を行っています。



29 留学生懇談会

5月に歓迎を兼ねて、海外からの留学生と一般学生が学生食堂で交歓会を催します。授業などで留学生と関わりの深い教員も多数参加します。本学は留学生との間に国際情勢に左右されない確固とした友情を築き上げるよう努めています。



30 外国人科目等履修生

外国人が日本に関する授業や本学独自の魅力ある授業を数科目単位で履修することができ、積極的に受入れています。2014年度はスイスチューリッヒ大学、サウジアラビアからそれぞれ1名受入れ、2015年度9月からは同大学より2名の科目等履修生を受入れました。他大学に在籍する留学生や日本に在住する社会人も本学で学ぶことができます。



31 『共立インターコム』

国際交流のための機関誌Kyoritsu Intercomを毎年発行しています。これによって本学の留学制度、国際交流活動の紹介を行っており、本学在学生の保護者および全国の高等学校へ送付しています。在学生にとってもより現実的に留学を検討できるきっかけとなっています。将来的にはこれを通じて留学経験のある卒業生ともリンクし、情報を共有・交換することで、本学を目指す高校生、在学生、そして卒業生など、各世代が連携した国際交流活動を推進したいと思っています。



32 中国

本学は早くから中国との交流の重要性に着目し、1991年の東北電力学院を皮切りに、東北師範大学、北京大学、北京清華大学、西安交通大学など、計10大学と協定を結んできました。これまで、留学生や教職員研修団の派遣、訪問団の受け入れ、共同研究など、地道な交流を重ねてきました。これからも中国との絆を大切にしていきたいと思います。



33 ベナン共和国

2006年7月に西アフリカのベナン共和国大統領ご夫妻が本学を訪問されたことから、本学とベナンとの親交が始まりました。それ以後、毎年、ベナンから留学生を迎えています。2012年3月、本学は特使として本学のフランス人教授ほか数名をベナンに派遣し、歓迎を受けました。2013年7月には本学において駐日ベナン大使夫人（本学へのベナンからの最初の留学生でもありました）の講演、およびベナンのプロ演奏家によるジャンベ（西アフリカの民族楽器の太鼓）の演奏が行われました。



34 インドネシア

2013年9月、文芸学部教授がインドネシアのマラナタキリスト教大学で能面の作品展と仮面文化に関するワークショップを開催、翌年には本学において仮面展覧会が開催されました。「ワヤン」と呼ばれる曼荼羅画はインドネシアの神話をもとに作られており、本学とマラナタキリスト教大学との交流が協定を前提として深まりつつあります。



35 グローバルコモンズ

神田一ツ橋キャンパス2号館に、留学生のための“人・地域・社会の密接な交流空間”としてグローバルコモンズが誕生しました。日本語特別クラスを実施する他、Face to faceのコミュニケーションなど、ここでしかできない次世代型の国際交流が実現しています。畳敷きのオープンスペースは和の心を共有するための空間です。留学生に日本の作法を伝えるとともに伝統文化を共有します。



36 フランス語 中国語 トークルーム

2号館グローバルコモンズでは、中国語圏とフランス語圏からの交換留学生が、毎月2回程お昼休みに在室しており、留学生と会話が出来るトークルームを開催しています。会話を通して語学力を磨くだけでなく、お互いの文化について理解を深める国内で可能な異文化交流の場として活用されています。



37 カナダ留学フェア@Kyoritsu

留学費用が安価で、比較的治安もよいカナダ留学へのニーズが高まっており、留学先の情報提供の機会としてカナダ留学フェアを実施しています。現地より数校の大学を招き、大学やプログラムの特徴等についての情報を提供するだけでなく、個別相談に応じ、留学に関する疑問を解消し、それぞれの希望に沿った留学が実現できるよう支援を行っています



1 共立講堂

後に東京タワーを設計した内藤多仲氏の設計により、昭和13年に落成しました。戦前はずっと、戦後も日比谷公会堂と並んで音楽公演のメッカでした。共立講堂で公演した国内外の有名演奏家は数知れません。年配の方々にとっては若いころの思い出に繋がる場所です。昭和31年に全焼しましたが、翌32年に再建され、平成15年には千代田区景観まちづくり重要物件に指定されました。平成19年の改修工事にあたっては、昭和13年当時できるだけ近い状態となるように配慮されました。また、平成28年より講堂内の天井・屋根耐震化工事にあわせて、座席、映像機器のリニューアル、照明のLED化等を実施し、その歴史に新たな1ページが刻まれました。現在は一般への貸し出しは行っていないが、本学主催の講演会その他の催し物には学外から大勢来られて、「文化財」と言ってもいい共立講堂での時間を楽しんでおられます。



2 公開講座

本学では昭和56年以来、毎年実施しています。現在、神田一ツ橋キャンパス、八王子キャンパス、研修センター杉並寮の3会場で実施しています。高等教育機関としての大学の知的財産を活用した講座を通して、地域へ、また広く社会へ貢献したいと考えています。

3 神保町ブックフェスティバルへの参画

毎年秋に行われる「神保町ブックフェスティバル」に本学の学生や教職員が、サークル・研究室単位での協力やボランティアでの協力等、様々な形で参画し、地域の活性化に貢献しています。

4 ボランティア情報コーナー

本学は学生のボランティア活動を奨励しています。キャンパス内にボランティアコーナーがあり、教員から成るボランティアセンター運営委員会によって運営されています。ボランティア活動に意欲のある学生が利用しています。

5 撮影協力

テレビドラマや映画等の撮影に施設を貸し出しています。本学の施設には新しい部分と比較的古い部分とがありますが、その両方が関係者の方々には魅力的に映るようです。本学のPR効果だけでなく、在学生、卒業生が本学への親しみをより強く感じられることにも繋がっています。

6 立地との関わり

本学は明治19年（1886年）に創設され、その翌年にここ神田一ツ橋地区に移って以来、この地で教育活動を展開してきました。地域に根づいた大学としては最も古いと言えます。近代的かつ躍動的なビジネス街のただ中にありながら、皇居平川門と神田古書店街までそれぞれ徒歩数分、武道館と秋葉原電気店街までそれぞれ徒歩20分という「地の利」に象徴されるように、本学は伝統と革新の双方を見据えながら活動しています。この地を守ることこそ、本学独自の取り組みの原点に位置するものです。本学は「地域の大学」としての栄誉と責任をこれからも担い続ける所存です。



7 千代田区内近接大学の高等教育連携強化コンソーシアム

2018年4月、本学は千代田区内近接大学、大妻女子大学・大妻女子大学短期大学部、東京家政学院大学、二松学舎大学、法政大学とコンソーシアムに関する包括協定を締結しました。このコンソーシアムは、構成大学、千代田区及び地域産業界等が、近接する立地等を生かした連携を図ることにより、学生の学びや社会の人材養成に対する要請など多様なニーズに応えることをその目的としています。今後、構成大学間の連携を図り、FD・SD活動や各種イベントを通して大学間の教育の質向上の取り組み、正課外活動における幅広い学生の交流、単位互換や共同授業の開講など多様な学びを支援する連携が期待されます。

8 千代田学

千代田学は、区内の大学が、千代田区に関する様々な事象を一つの学問として学ぶというものです。東京の中心である千代田区の歴史と文化を再確認し、さらに発展させるために、千代田区が企画・提唱しました。創立以来130年にわたって千代田区で教育・研究を行ってきた本学はその趣旨に深く共鳴し、毎年これに応募し、採択されて、千代田区関連の調査・研究に取り組んでいます。その成果はさまざまなかたちで学生にも及び、本学で学ぶ意義をいっそう明確なものにしています。

9 東京オリンピック・パラリンピックへ向けて

本学は2020年の東京オリンピック・パラリンピックを国際親善促進の重要な機会と捉え、全学を挙げてこれに協力する態勢を整えています。外国語のガイドの養成をする一方でオリンピックフォーラムを開催するなど大学として成しうることを模索しながらこれに全力で当たるつもりです。



10 共立オリンピック・パラリンピックボランティア育成プログラム

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、東京都などが運営を行う都市ボランティアや、大会組織委員会が募集・運営する大会ボランティアに対応できるようなスキルを身に付けさせるプログラムを実施しています。本学や他の団体が主催するオリンピック・パラリンピック関連のフォーラムへの参加、共立アカデミーで開講する語学力の養成、マナーの養成、災害への対応力の養成やボランティア活動への参加など、所定のプログラムを修了した学生には、「共立女子大学・共立女子短期大学認定ボランティア」として認定証を授与します。また、1年間で全ての修了要件プログラムを修了した学生に対しては、希望により教養教育科目「自己開発」の単位認定を行っています。オリンピック・パラリンピック終了後は、社会に貢献するボランティアの養成プログラムとしてさらなる充実を図っていく予定です。

11 共立女子学園内託児所

本学学生への学修支援、育児を行う教職員への就業支援という目的のもとに設置された施設です。また、本学家政学部児童学科付設 発達相談・支援センター（さくらんぼ）の利用者や千代田区在住者の利用も可能としており、地域の子育て支援の一端を担う拠点となることも視野に入れています。

新たに整備された施設設備や実績のある保育事業者による委託運営により、安心して子どもを預けられる環境が整っています。

XV 卒業生との連携

1 『共立女子学園報』

共立女子学園の広報紙『共立女子学園報』（年2回発行）は各回約10万部が発行されますが、そのうち7万部超を卒業生向けに発送しています。他は在学生や全国の高等学校、企業などに送付し、また、オープンキャンパスで本学を訪れた受験生にも配布しています。

学園報を通じて、本学園の多くの関係者の方々に、本学の活動状況や教育ヴィジョンをご理解いただきたいと願っています。

時々、卒業生から励ましの言葉や母校への愛着のこもった便りが寄せられます。



2 共立生涯メール

教職員が相互の連絡や資料の受け渡しに利用しているメールを共立Gメールといますが、希望した卒業生も参加することができ、それを中心に「共立生涯メール」と呼んでいます。学校から卒業生への「お知らせ」に利用するなど、今後の活用が見込まれています。

3 桜友会

本学の同窓会組織で、全国各都道府県に支部を展開しています。学生は会費の納入により入学と同時に学生会員となります。卒業後は正会員として登録され、卒業後も桜友会を通して本学との繋がりを保つことになります。一般社団法人として活動しており、主催する講演会やコンサートは会員のみならず会員のご家族、一般の方にも広く開放されています。また、多様な奨学金給付制度により、学生や卒業生への支援も積極的に行われています。

明治39年創刊の機関誌『桜の友』は戦中・戦後の休止期間の後に復刊され、発刊数はすでに65号を超えました。卒業生に母校の現状を知らせ、在学生には先輩達の活躍の状況を紹介しています。

桜の友



4 教員免許状更新講習

平成19年6月の改正教育職員免許法の成立により、平成21年4月1日から導入された教員免許更新制。本学では、卒業生サービスの一環と位置づけながら、卒業生以外の受講希望者をも受け入れることとして、制度導入初年度から開講し、教職課程を有する大学の社会的責務を果たしています。



295

5 ホームカミングデイ

本学は平成28年に創立130周年を迎えました。今まで非常に多くの卒業生を世に送り出してきました。本学では学園と本学の同窓会組織である櫻友会との共催でホームカミングデイを開催しています。各学部・科ごとに趣向を凝らした企画で大勢の卒業生を迎えています。ご退職になった先生方も含め、恩師との再会は卒業生にとってかけがえのないものとなっています。同期の仲間との語らいは、一瞬にして学生時代に時間を戻してくれます。時がたつのを忘れてあちこちで昔話に花が咲く様子は、終わりの時間を告げるのをためらわせます。

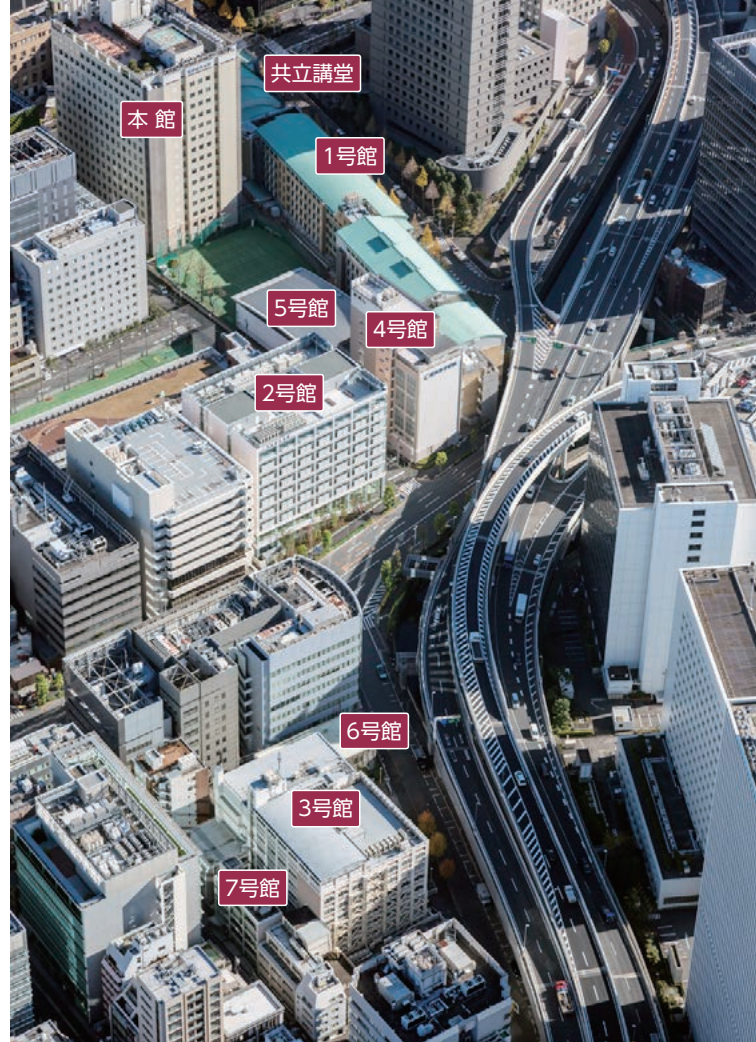


296

神田一ツ橋キャンパス



本館



共立講堂



2号館



3号館



6号館



共立女子大学・共立女子短期大学

独自の取り組み 2019

2018年10月20日 発行

発行：学校法人共立女子学園 総合企画室

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋2-2-1

Tel. 03-3237-2838

共立女子大学・共立女子短期大学

〒101-8437 東京都千代田区一ツ橋 2-2-1 Tel. 03-3237-2838

発行：学校法人共立女子学園 総合企画室